

成績分析からみた大学教育の研究(2)：入学類型と学業成績の関係¹

大江篤志，辻秀人，山崎和郎，白井培嗣，後藤隆夫，岩谷信，櫻井研三，水谷修²

1. 課題と方法

(1)目的

教育機関としての大学が維持され、存続していくための必須の要件の一つが学生の確保にあることはいうまでもあるまい。学生の確保は一般に入学試験という選抜を主要な手段としているが、これは基本的になんらかの意味において「質の高い」学生の獲得を意図してなされているものであろう。しかし、より根本的には一定程度の学生数の確保の要請にもとづいていることもまた否定できない。つまり大学は、質の高い学生を確保したいとの要求をもちつつも、一定程度の学生数を確保しなければならない。この2つの条件が相反しなければ、すなわち質の高い多数の学生が確保できれば、少なくとも大学が自らの存続について大きな問題や危機感を抱くことはないであろう。

この2つの条件の充足そのものは個々の大学内部の問題であるかもしれない。しかしこの充足は大学が相互に関与しておこなうゲームに似た社会的性格をも有しているのもまた事実であろう。大学は他大学との関係でのみ、より質の高い多数の学生を確保するほかはないからである。しかも18歳人口の減少過程においては大学のゲーム戦略が熾烈化しており、私立大学はもとより、現在では国立大学でさえも自校をアピールするために高等学校、受験生、高校生にたいして積極的に広報宣伝活動をするようになってきている。

これとともに、学生の募集や選抜の方法が多様化している。入学試験も試験科目の教科や数において様々になっている。推薦入試の内容も多岐にわたり、最近ではアドミッションズ・オフィス方式、いわゆるAO入試が多くの大学でまたたくまに採用されてきている。

選抜方法の多様化とは、大学に入学してくる学生の入学類型の多様化にほかならず、入学類型が多様化すればするほど、大学は多様な質の学生を抱えこまざるをえまい。これは「質の高い」多数の学生の確保という命題の一つの帰結であるといつてよい。そしてこれ

¹ 本稿の作成にあたっては、最初大江が全体の草稿を執筆し方向性を定め、これを所員が所属学部ごとに分担して検討し、修正を加えるという方法をとった。なお資料の整理や作図作表にあたっては本報告集第一集と同様、本研究所事務員平塚勝也氏に全面的にご協力をいただいている。伏して感謝する次第である。

² 各執筆者の所属学部は報告集巻末に掲載してある。

は大学における教育の内容と水準，方法などに直接間接に関わる問題ともなろう。現在，大学入学生の学力の低下が社会問題化し，補習教育などにより対処している大学が少なくないが，そもそも選抜方法の多様化は個々の大学の教育の問題なのである。

いくつかの異なる入試類型を経由して入学した大学生を，在学学生を構成する学生カテゴリーとしてとらえたとき，原則として集団教育を前提とする大学において，これらの学生カテゴリーははたして一定程度の均質性を有しているか否か，あるいはどの程度まで均質といえるかという問題に直面せざるをえない。これが本稿の基本的な課題関心である。この均質性の指標としては大学教育への準備体制と程度，学業態度，入学後の学生生活の目標，卒業後への将来展望などが考えられるが，本稿では学生が受講した科目にたいして担当教員がおこなう評価，一般にいうところの成績（以下，「学業成績」とする）を用いることにする。学業成績は大学での教育過程でのもっとも重要な指標となると考えるからである。ここで上述した課題関心は「入学類型によって在学中の学業成績が異なっているか否か」と操作される。本稿の目的は入学類型による学業成績の相違の有無と程度とを明らかにすることにある。

(2)方法

①分析対象とする学生：1996年4月に入学し，4年後の2000年3月に本学を卒業した学生と，少数ではあるが1998年4月に他大学から編入学した学生である。したがって原級留め置き，留年などの学生は本稿の分析対象とはなっていない。資料分析作業の都合上，本稿では工学部を除いているので，総数は2,305人（男子1,381人，女子924人）である。なお以下においては二部（夜間部）を関係学部から分離して二部としてとりあつかっている。³

②入学類型の特定と学業成績：個々の対象学生の入学類型は入試センター保管の，また学業成績は教務部で管理している資料を用いた。

分析対象となった学生の主要な入学類型は，3科目の入学試験，推薦入試，本学と同一法人経営の2つの高校からの入学に大別される。分析にあたっては，以下に示すように，入学試験を正規合格，一次補欠合格（以下，「一次補欠」とする），二次補欠合格（「二次補欠」）の3カテゴリー，推薦入試は学業推薦，スポーツ推薦，キリスト者推薦の3カテ

³ 対象学生の学部，学科別人数と男女比率については，大江篤志・水谷修 2001 成績分析からみた大学教育の研究(1)課題の検討にむけて，東北学院大学教育研究所報告集，1,11-34.を参照されたい。

ゴリー，同一法人経営はA高校とB高校の2カテゴリー，二部特別入試，および編入学の計10カテゴリーとした。

入学試験・・・正規合格，一次補欠，二次補欠

推薦入学・・・学業推薦，スポーツ推薦，キリスト者推薦

同一法人・・・A高校，B高校

二部特別入試

編入学

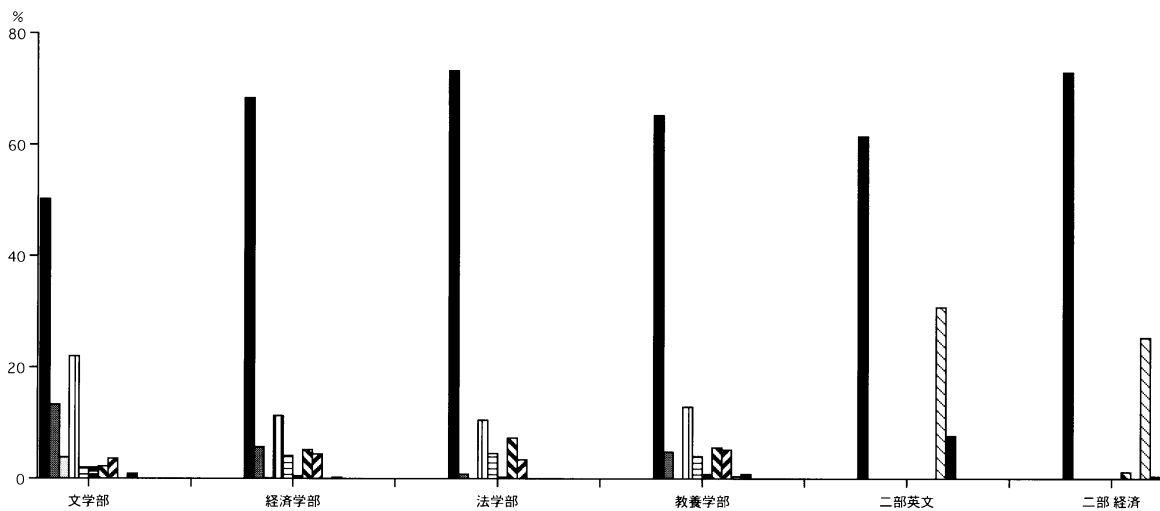


図1 入学類型別学生比率（学部別）

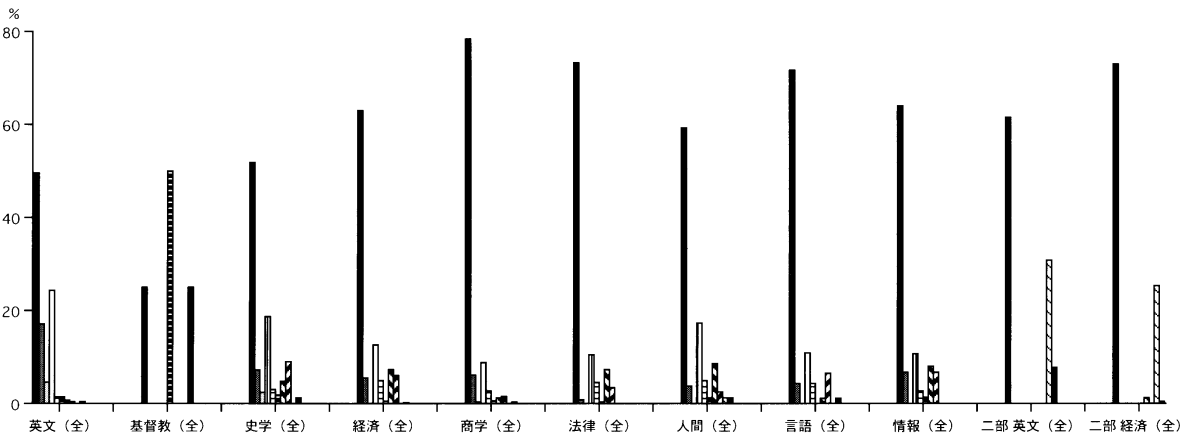


図2 入学類型別学生比率（学科別）



【図 1】は、これら10カテゴリーの入学類型の学生比率を学部単位で、【図 2】は学科単位で示したものである。

なお、編入学生の登録科目は他のカテゴリーと異なっていること、またこの比率は総じて小さいこと、などの理由から本報告においては比較的数の多い二部においてのみ取り上げている。

本報告の対象となっている本学学生は各学年開始時点で受講科目を登録する。各学生が登録した科目総数を「登録科目数」とする。それぞれの受講科目の学業成績は100点満点で評価されている。単位取得の合格条件は60点以上であり、60点未満は不合格である。前者の科目数を「合格科目数」、登録科目数に占める「合格科目数」の割合を「合格割合」、後者の科目数を「不合格科目」とし、これが登録科目数に占める割合を「不合格割合」とする。また未受験の場合は「放棄」としてあつかわれる。この総数を「放棄科目数」、これが登録科目数に占める割合を「放棄割合」としておく。

③資料の分析：最初に入試類型ごとに登録科目数、合格科目数、不合格科目数、および放棄科目数の平均を、次ぎに合格科目と不合格科目全体の平均点（学業成績）、次に放棄割合と不合格割合をパーセントで算出した。どちらの分析においても教養教育科目、専門教育科目を分離していない。学科、専攻によりカリキュラム構成、受講科目が異なっているので、これらの分析は原則として学科（文学部、経済学部、法学部、二部）、専攻（教養学部）を単位としておこなった。

2. 文学部

本報告の分析対象となる文学部卒業生総数は450人（男子152人、女子298人）であり、分析対象者2,305人の19.5%である。

はじめに文学部の入学類型ごとの割合を、他学部との比較でみておく【図 1】。

入試3カテゴリー、すなわち正規合格、一次補欠、二次補欠全体が各学部において占める割合で比較してみると、文学部の入試3カテゴリーの比率は67.3%であり、二部英文学科に次いで低い。またこれら3カテゴリーを正規合格と補欠合格（一次補欠と二次補欠の和）に二分した場合、正規合格の割合は50.2%、補欠合格17.1%である。これを他学部と比較した場合、前者は最低であり、後者は最高である。

推薦入学3カテゴリーの割合の学部間比較によると、全体では文学部が最高である(26.0%)。これを入学者が比較的多い学業推薦とスポーツ推薦について学部間比較をしてみると、前者の文学部内における割合は22.0%で最高、後者は2.0%で最低となる。

同一法人の2高校全体の文学部全体に占める割合は5.8%であり、二部経済学科に次いで低い。2高校を個別にみると、A高校が2.2%、B高校が3.6%となり、前者は二部経済学科に次いで低く、後者は法学部に次いで低い。

なおキリスト教学科の全体対象者は4名と僅少なので、以下においては取り上げていない。

2-1 英文学科

(1)入学類型の分布

英文学科の入試3カテゴリーの割合は71.3%であり【図2】、本稿で対象としている11学科では商学科、法律学科、二部経済に次いで高い。文学部3学科では最高である。反面、この3カテゴリーのうち、正規合格割合は49.6%であり、史学科の51.8%と大差がない。これは英文学科の補欠入学2カテゴリー合計の割合が11学科中最高の21.7%であったことによる。すなわち英文学科の入試3カテゴリー割合の高さは補欠2カテゴリー割合の高さによっているといえる。

次に推薦入試3カテゴリーをみてみよう。英文学科における割合は27.1%であり、全学科のなかでは基督教学科に次いで高く、文学部内においても同様である。これら3カテゴリーのなかでも英文学科における学業推薦の割合は24.3%、全学科においても、また文学部においても最高となっている。

反対に同一法人2高校の割合は1.1%であり、これらのカテゴリー経由の入学生をもつ学科のなかでは最低である。

(2)登録科目、放棄科目、不合格科目

【図3】は対象とした英文学科学生入学類型別、男女別に平均登録科目数と放棄科目数を整理したものである。

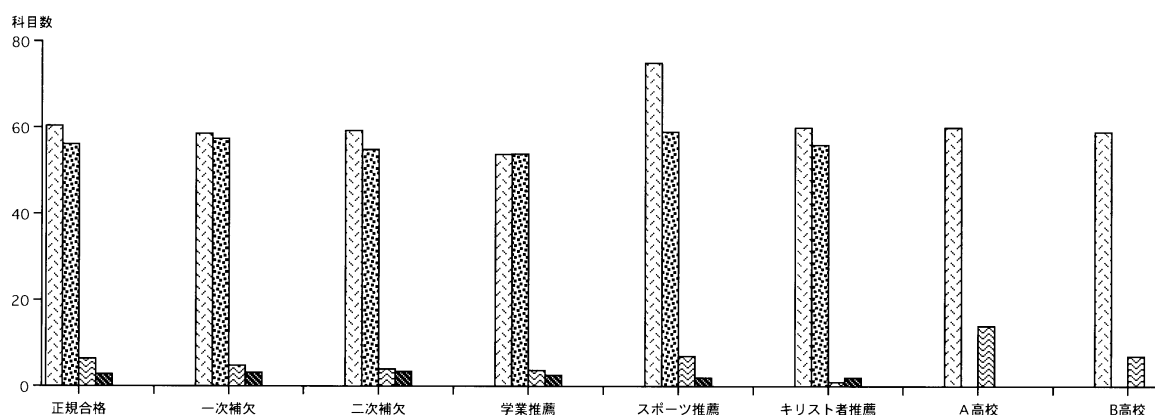


図3 登録科目数と放棄科目数；英文学科

□ 平均・男 ▨ 平均・女 ▩ 放棄・男 ■ 放棄・女

①登録科目数：英文学科対象者280人（男子68人，女子212人）が入学から卒業までの間に登録した科目の平均は56.4である。対象者のなかに同一法人の2高校からの女子入学者はいないので，これら以外のカテゴリーについて男女比較をおこなうと，学業推薦（男子53.8科目，女子53.9科目）を除くすべてのカテゴリーにおいて男子が女子よりも多く科目登録をしている。なかでもスポーツ推薦における男女差が大きく，16科目におよぶ点が注目される。以下においては，男女別々にみていくことにする。

男子：登録科目数が少ない順に入試カテゴリーを並べると，

学業推薦<一次補欠<B高校<二次補欠<キリスト者推薦=A高校<正規合格<スポーツ推薦となる。学業推薦の平均登録科目数は53.8，一次補欠は58.6，正規合格は60.4，スポーツ推薦75.0である。学業推薦と一次補欠の登録科目数の差は4.8，一次補欠と正規合格の差は1.8，正規合格とスポーツ推薦の差は14.6，学業推薦とスポーツ推薦のそれは21.2科目であった。

女子：入試カテゴリーによる科目数の相違は

学業推薦<二次補欠<キリスト者推薦<正規合格<一次補欠<スポーツ推薦

となっている。このうち学業推薦の登録数は53.9，正規合格が56.1，一次補欠57.4，スポーツ推薦59.0である。学業推薦が最小，スポーツ推薦が最大となっているところは男子と同じである。しかし学業推薦とスポーツ推薦の差は4.9科目であること，各カテゴリー間の差は最大で1.6（一次補欠－スポーツ推薦），最小が0.1（キリスト者推薦－正規合格）で

あり、各カテゴリーの間に大きな変動はみられない。また一次補欠とスポーツ推薦以外の4カテゴリーにおいてはすべて学科全体の平均登録科目数56.4を下回っている。

②**放棄科目**：放棄科目数は1～14科目であり，入学類型，男女の間のばらつきが大きい。

男子：放棄科目数の最少はキリスト者推薦，最大はA高校であり，その差は13科目に達している。全体の順序は以下のとおりである。

キリスト者推薦<学業推薦<二次補欠<一次補欠<正規合格<スポーツ推薦=B高校<A高校

最少のキリスト者推薦の放棄は1科目，学業推薦は3.7科目であり，学業推薦と一次補欠の差は1.1科目である。また一次補欠と正規合格の差は1.6，正規合格とスポーツ推薦，B高校のそれは0.6科目，スポーツ推薦，B高校とA高校の差は7科目である。

以上のように，放棄科目数のみに限れば，キリスト者推薦が最少，A高校が14科目で最大であり，この間に3.7～4.8科目の学業推薦・二次補欠，一次補欠が，6.4～7科目の正規合格・スポーツ推薦・B高校が2つのグループをなして分布している。

次に，放棄科目を登録科目に占める割合によって入学類型間の相違をみておく。放棄科目割合の最少はキリスト者推薦の1.7%，最大はA高校の23.3%であり，この間の順序は以下のとおりである。

キリスト者推薦<二次補欠<学業推薦<一次補欠<スポーツ推薦<正規合格<B高校<A高校

キリスト者推薦と二次補欠の差は5.1%であり，二次補欠と学業推薦の差は0.1%，学業推薦からB高校までの各カテゴリー間の差はすべて1%台で推移するが，B高校とA高校の間には11.4%の差がある。つまりキリスト者推薦の放棄割合はきわめて少なく，対照的にA高校の割合がきわめて大きい。二次補欠と学業推薦はほぼ同じ6%台であり，一次補欠からB高校までは8～11%台に集まる。そしてB高校とA高校の間の懸隔が大である。

女子：キリスト者推薦とスポーツ推薦の放棄科目数が2科目で最少，二次補欠が3.4科目で最大であり，その順序は以下のようになるが，最大と最少の差は1.4科目であり，男子とくらべると入学類型ごとの相違はごく小さいといえる。

キリスト者推薦=スポーツ推薦<学業推薦<正規合格<一次補欠<二次補欠

これを放棄率で比較すると以下のようになり，最少がスポーツ推薦の3.4%，最大が二次補欠の6.3%である。放棄科目数の場合と同様に入学類型による放棄率の差は男子の21.6%よりもはるかに小さい。

スポーツ推薦<キリスト者推薦<学業推薦<正規合格<一次補欠<二次補欠

③不合格科目：入学類型別，男女別の不合格科目数は【図4】に示した。

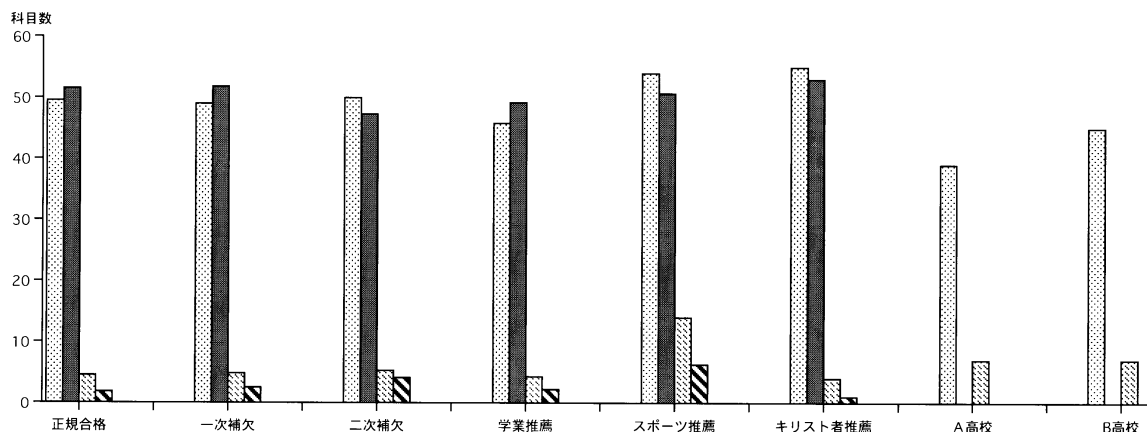


図4 合格科目数と不合格科目数；英文学科

□ 合格・男 ■ 合格・女 ▨ 不合格・男 ▩ 不合格・女

男子：不合格科目数の最少はキリスト者推薦の4.0，最多はスポーツ推薦の14.0であり，その順序は以下のとおりである。

キリスト者推薦<学業推薦<正規合格<一次補欠<二次補欠<A高校=B高校<スポーツ推薦

キリスト者推薦，学業推薦，正規合格，一次補欠の不合格科目数は4.0~4.8，二次補欠は5.3であり，これらの間の差は1.3科目であるが，A，B高校は7.0であり前4者よりも多い。さらにスポーツ推薦は14.0科目と格段に多くなっている。

これを不合格科目が登録科目にしめる割合，不合格割合で並べると，

キリスト者推薦<正規合格<学業推薦<一次補欠<二次補欠<A高校<B高校<スポーツ推薦

となり，不合格割合の最少はキリスト者推薦の6.7%であり，最大のスポーツ推薦との差は17.9%に及ぶ。キリスト者推薦から二補欠までは6~8.9%台，A高校とB高校は11%台，スポーツ推薦が18.7%である。

女子：キリスト者推薦が最少の1科目，スポーツ推薦が最大の6.3科目である。これらを含めた順序は以下のようである。

キリスト者推薦<正規合格<学業推薦<一次補欠<二次補欠<スポーツ推薦

キリスト者推薦と一次補欠の差は1.2科目であり，二次補欠の不合格科目数は4.1科目である。男子にくらべると最少と最大の差は小さいが，スポーツ推薦の不合格科目数がかな

り多くなっている。なお不合格割合もこれと同じ順序となり，最少のキリスト者推薦は1.8%，正規合格，学業推薦，一次補欠の3カテゴリーは3～4%台，二次補欠は7.5%，スポーツ推薦は10.7%である。

(3)学業成績

【図5】は入学類型別，男女別に学業成績平均値を整理したものである。英文学科全体の平均は76.2，男子は71.7，女子77.6であり，女子が高い。

男子：学業成績の最高値は学業推薦（73.2），最低はスポーツ推薦（63.5）であり，その差は9.7となる。入学類型間の関係は以下のとおりである。

スポーツ推薦<A高校<B高校<一次補欠<二次補欠<キリスト者推薦<正規合格<学業推薦

この中でスポーツ推薦とA高校はともに63点台であり，一次補欠・二次補欠・キリスト者推薦・正規合格・学業推薦の5カテゴリーは71～73点台，B高校は68.0であった。

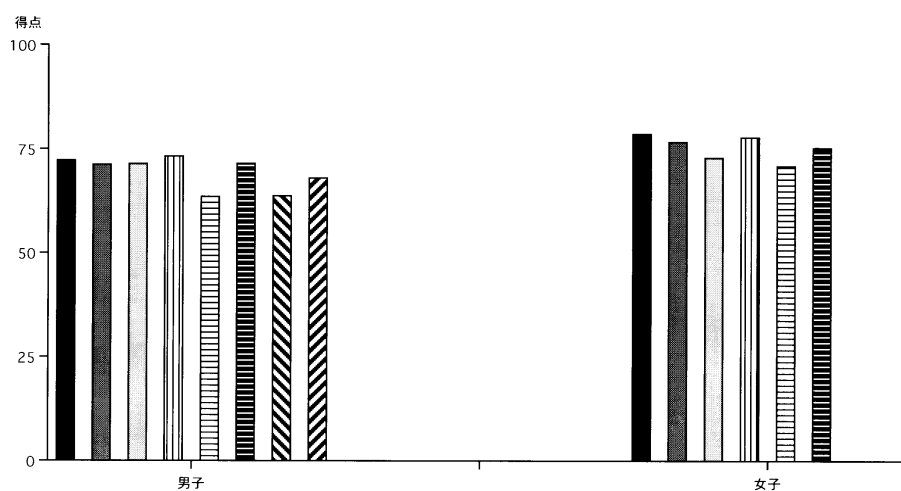


図5 学業成績：英文学科

■ 正規合格 ■ 一次補欠 □ 二次補欠 ▨ 学業推薦
 ▩ スポーツ推薦 ▤ キリスト者推薦 ▦ A高校 ▧ B高校

女子：入学類型6カテゴリーの学業成績は，以下に示すように，スポーツ推薦（70.9）から正規合格（78.6）の間に分布している。

スポーツ推薦<二次補欠<キリスト者推薦<一次補欠<学業推薦<正規合格

この中でキリスト者推薦，一次補欠，学業推薦，正規合格の4カテゴリーは75.3～78.6に集中しており，二次補欠が72.9であった。

(4)英文学科小括

ここで英文学科における登録科目，放棄科目，不合格科目，および学業成績と入学類型との関係の概要を取りまとめておく。これまでの分析から男女間の相違があること，これらの関係には明確かつ一貫的な傾向が必ずしも認められるとはいえないことなどの理由から，入学類型カテゴリーごとに取り上げる。

①男子：全般に入学類型ごとのばらつきが大きい。

学業推薦：登録科目数が少ない。登録科目と不合格科目も少なく，学業成績は高い。

スポーツ推薦：登録科目数，放棄科目，不合格科目が多く，学業成績は低い。

キリスト者推薦：登録科目数はごく平均的であるが，放棄科目と不合格科目が少ない。学業成績も平均的である。

正規合格：登録科目数と放棄科目はやや多いが，不合格科目が少なく，学業成績は高い。

一次補欠：登録科目と放棄科目はそれほど多くはない。不合格科目も相対的に少なく，学業成績も平均的である。

二次補欠：基本的には一次補欠と同様の傾向を示す。

A高校：登録科目は多い方で，放棄科目，不合格科目も多い。学業成績は高くない。

B高校：登録科目は相対的に少ないが，放棄科目，不合格科目が多く，学業成績はやや低い。

②女子：男子にくらべると入学類型ごとのばらつきは小さい。

学業推薦：男子とほぼ同様の傾向を示し，登録科目数が少ない。放棄科目，不合格科目とも相対的に少なく，学業成績は高い。

スポーツ推薦：登録科目数，不合格科目が多く，学業成績は低い点では男子と類似しているが，放棄科目が少ない。

キリスト者推薦：登録科目数は標準的であり，放棄科目，不合格科目は少ない。学業成績も平均的である。

正規合格：登録科目数，放棄科目数は平均的であるが，不合格科目数は少なく，学業成績は高い。

一次補欠：登録科目数，放棄科目ともにやや多い。不合格科目は平均的であり，学業成績は低くはない。

二次補欠：登録科目数は少ないものの、放棄科目割合、不合格割合ともにやや高い。学業成績は中程度である。

2-2 史学科

ここで分析する対象者は166人（男子84人，女子82人）である。

(1)入学類型の分布

入学試験3カテゴリーの割合は61.4%であり，11学科では基督教学科に次いで低い【図2】。基督教学科の対象者数が4名と僅少であることを考慮すると，ほぼ最低の割合とみてよいだろう。なおこの3カテゴリーにおいては補欠合格が9.6%であるので，正規合格の割合は英文学科をやや上回る。推薦入学3カテゴリー全体の割合は23.5%であり，全学科中では基督教学科に次いで高い。なかでも学業推薦は18.7%であり，英文学科に次ぐ。同一法人の2つの高校の割合は13.8%であり，情報科学専攻に次いで高い。

(2)登録科目，放棄科目，不合格科目

【図6】は史学科の対象者166人（男子84人，女子82人）の登録科目数と放棄科目数を入学類型別，男女別に整理したものである。

①登録科目：史学科全体の平均登録科目数は63.8であった。これを目安に男女を比較す

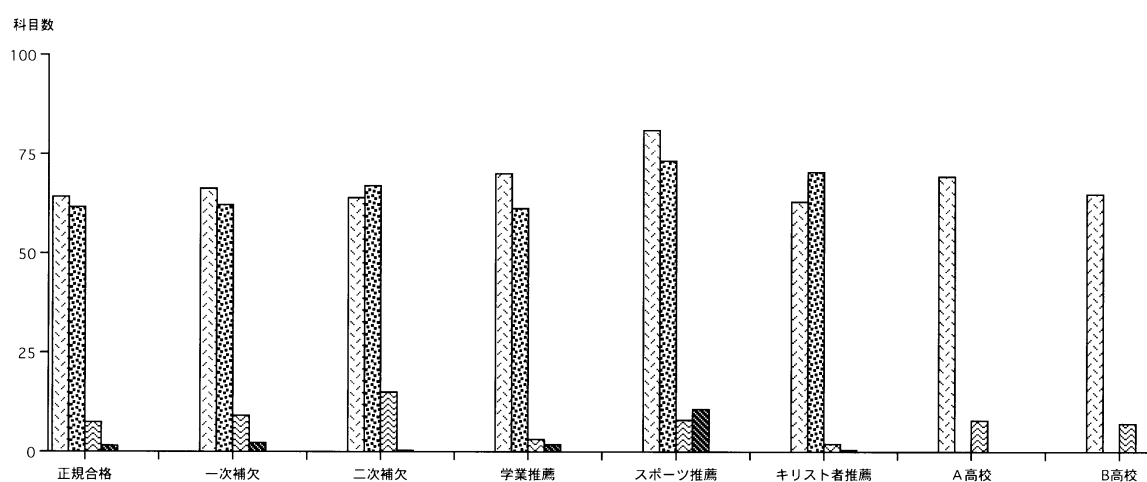


図6 登録科目数と放棄科目数；史学科

□ 平均・男 ▨ 平均・女 ▩ 放棄・男 ■ 放棄・女

ると、平均以下のカテゴリーでは男子のキリスト者推薦のみ、女子の学業推薦、正規合格、一次補欠の3カテゴリーである。女子の場合、同一法人A、B高校からの推薦入学者はいないので、残りの6カテゴリーについて比較すると、二次補欠とキリスト者推薦以外の4カテゴリーにおいて女子の登録科目数が少ない。

男子：登録科目数が少ない順に入学類型カテゴリーを並べると、

キリスト者推薦<二次補欠<正規合格<B高校<一次補欠<A高校<学業推薦<スポーツ推薦の順となる。最少のキリスト者推薦は63.0、最多のスポーツ推薦は81.0であり、その差は18.0科目である。この間に二次補欠・正規合格・B高校の3カテゴリーが64科目台で、一次補欠・A高校・学業推薦が66.3~70.1科目の範囲で分布する。

女子：女子の登録科目数の順位は

学業推薦<正規合格<一次補欠<二次補欠<キリスト者推薦<スポーツ推薦である。このうち学業推薦・正規合格・一次補欠の3カテゴリーは61.3~62.2科目であり、史学科全体の平均を下回る。これにたいしキリスト者推薦(70.5科目)とスポーツ推薦(73.3科目)が目立って多く、二次補欠(67.0科目)がこれらの中に位置している。

②**放棄科目：**放棄科目数は0.2~15.0であり、入学類型、男女による相違が大きい。

男子：最少はキリスト者推薦の2.0科目、最多は二次補欠の15.0科目であり、その差は13.0科目である。この間の順位は以下のとおりである。

キリスト者推薦<学業推薦<B高校<正規合格<A高校<スポーツ推薦<一次補欠<二次補欠学業推薦(3.1科目)はキリスト者推薦とともに放棄科目最少のグループをなしている。B高校・正規合格・A高校・スポーツ推薦・一次補欠は7.1~9.1科目の範囲に集中し、全グループとくらべると相対的に多い。二次補欠はこれをさらに上回っている。

次に放棄割合と入学類型との関係を見てみよう。放棄割合の最小はキリスト者推薦の3.2%、最大は二次補欠の23.4%であり、その差は20.2%であった。その間の順序は以下のとおりである。

キリスト者推薦<学業推薦<スポーツ推薦<B高校<A高校<正規合格<一次補欠<二次補欠学業推薦(4.4%)はキリスト者推薦と同様に放棄率が低い。スポーツ推薦・B高校・A高校・正規合格は9.9~11.5%、一次補欠は13.7%でこれらの4カテゴリーよりもやや高くなっている。

女子：入学類型6 カテゴリーのうち、放棄科目数の最少は二次補欠の0.3科目、最多はスポーツ推薦の10.7科目であり、その差は10.4科目である。順位は以下のようなものである。

二次補欠<キリスト者推薦<正規合格<学業推薦<一次補欠<スポーツ推薦

二次補欠・キリスト者推薦は平均1科目以下、正規合格・学業推薦は1科目台である。一次補欠は2.2科目であり、スポーツ推薦との差は8.5科目であった。5 カテゴリーは男子にくらべると少なく、それだけにスポーツ推薦の突出が際立っている。

これを放棄率で並べた場合も順位は同じであり、二次補欠から一次補欠までは0.5～3.5%の範囲に分布し、男子よりもかなり低い。スポーツ推薦は14.6%であり多の Kategorii にくらべると高くなっている。

③**不合格科目：**各カテゴリーの不合格科目数は1.7～16.5におよび、入学類型と男女間の差が大きい【図7】。

男子：科目の多寡は以下に掲げるが、学業推薦・一次補欠・二次補欠の3 カテゴリーが4.9～5.0科目、スポーツ推薦が16.5科目で最多となっている。

学業推薦<一次補欠<二次補欠<正規合格<キリスト者推薦<B高校<A高校<スポーツ推薦

キリスト者推薦・B高校・A高校は8.0～10.1に分布し、それぞれの差は1.0～1.1であった。正規合格は6.1科目である。

各カテゴリーを不合格割合にしたがって並べた場合も順序は不合格科目数の場合と同じであり、学業推薦が最低の7.0%、次いで一次補欠(7.5%)、二次補欠(7.8%)が続き、

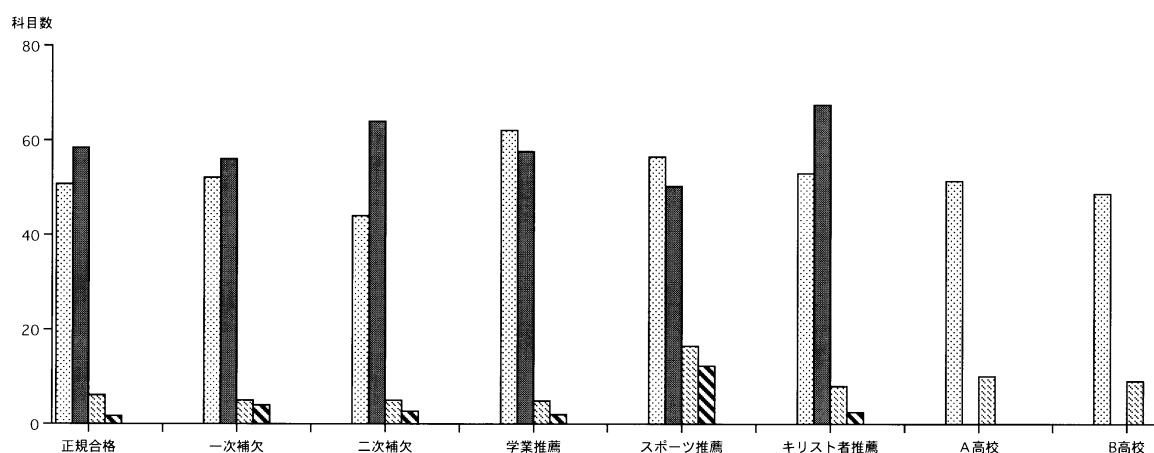


図7 合格科目数と不合格科目数；史学科

合格・男 合格・女 不合格・男 不合格・女

正規合格は9.5%，キリスト者推薦12.7%，B高校・A高校は14.0～14.6%である。スポーツ推薦の割合は20.4%であり，学業推薦との差は13.4%であった。

女子：不合格科目数の最少は正規合格の1.7，最多はスポーツ推薦の12.3であり，その順序は，

正規合格<学業推薦<キリスト者推薦<二次補欠<一次補欠<スポーツ推薦

となる。正規合格から二次補欠までは1.7～2.7科目の範囲に収まっており，一次補欠が4.0科目とやや多い。スポーツ推薦は12.3科目であり，最少の正規合格との差は10.6科目である。

不合格割合の順序も科目数と同じであり，最低の正規合格（2.8%）から最高のスポーツ推薦（16.8%）に分布する。このうち正規合格から二次補欠までの4カテゴリーは2.8～4.0%であり，一次補欠がこれらにくらべてやや高く6.4%である。

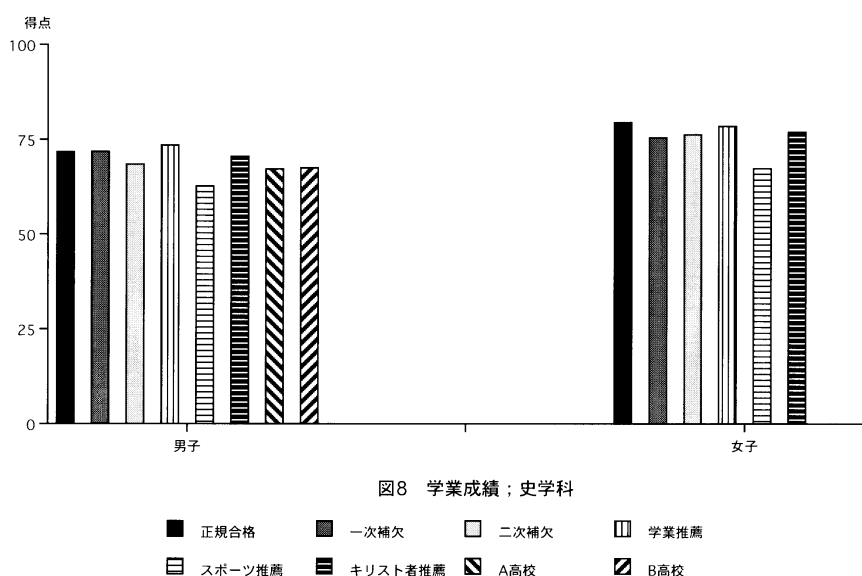
(3)学業成績

史学科全体の学業成績平均は74.4，男子のそれは70.5，女子78.3であり，男女間に開きがある。また男女共通の6カテゴリーのいずれをとっても女子の方が高い【図8】。

男子：最低はスポーツ推薦の62.7，最高は学業推薦の73.5となり，その間の分布は

スポーツ推薦<A高校<B高校<二次補欠<キリスト者推薦<正規合格<一次補欠<学業推薦

となる。このうちA高校・B高校・二次補欠の3カテゴリーは67.2～68.5，キリスト者推薦・正規合格・一次補欠は70.5～71.8，学業推薦は73.5であり，スポーツ推薦と学業推薦



の差は10.8点である。

女子：最低はスポーツ推薦の67.3点，最高は正規合格の79.5であった。その間の順序は以下のとおりである。

スポーツ推薦<一次補欠<二次補欠<キリスト者推薦<学業推薦<正規合格

一次補欠（75.5）から正規合格（79.5）までは0.7～1.5の差でほぼ連続的に上昇しているなかで，スポーツ推薦の67.3の低さが目につく。

(4)史学科小括

これまでの分析結果にもとづき，以下に史学科における入学類型と登録・放棄・不合格科目および学業成績の概要を男女別に整理しておく。

①男子

学業推薦：登録科目数が多く，放棄科目数と放棄割合，不合格科目数と不合格割合が低い。学業成績は高い。

キリスト者推薦：登録科目数は史学科では最少である。放棄科目数と放棄割合も最低であるが，不合格科目，不合格割合はともに少ない。学業成績はごく平均的である。

スポーツ推薦：登録科目数はきわめて多い。放棄科目数・放棄率はどちらかという平均的である。しかし不合格科目は最多，不合格率も最高である。学業成績は低い。

正規合格：登録科目数は少なく，放棄科目数・放棄割合，不合格科目数・不合格割合ともに中程度であるが，学業成績は相対的に高い。

一次補欠：男子全体としてみれば登録科目数はやや多く，放棄科目数・放棄割合は高いものの，不合格科目・不合格割合は低い。学業成績は正規合格とほぼ同じ程度に高い。

二次補欠：登録科目数は少ないが，放棄科目数・放棄割合が高く，不合格科目数・不合格割合はむしろ低い。学業成績はやや低い。

A高校：登録科目数は多い。放棄科目数・放棄割合ともにやや高い。不合格科目・不合格割合はスポーツ推薦に次いで高い。学業成績もスポーツ推薦に次いで低い。

B高校：登録科目数は相対的に少なく，放棄科目・放棄割合は平均的である。不合格科目・不合格割合は高い部類に属し，成績は相対的に低い。

②女子

学業推薦：登録科目数，放棄科目・放棄割合，不合格科目・不合格割合ともに少なく，学業成績は高い。

スポーツ推薦：登録科目数，放棄科目・放棄割合，不合格科目・不合格割合ともに多く，学業成績は最低である。

キリスト者推薦：登録科目数が多く，放棄科目・放棄割合は低い。不合格科目・不合格割合もそれほど多くはなく，学業成績はやや高い。

正規合格：登録科目数は少ない。放棄科目・放棄割合は多くはない。不合格科目・不合格割合は最少，学業成績は最高である。

一次補欠：登録科目数は少なく，放棄科目・放棄割合は少ない。しかし不合格科目・不合格割合は相対的に高く，学業成績はやや低いが平均の範囲といえる。

二次補欠：登録科目数は多い方であるが，放棄科目・放棄割合は最低となっている。不合格科目・不合格割合，学業成績ともに平均的である。

3. 経済学部

経済学部の分析対象となるのは945人（男子683人，女子262人），全体の41.0%であり，多学部にくらべると対象学生が多く，男子比率が高い【図1】。

経済学部の入学試験3カテゴリーの割合は74.2%に達し，他学部とくらべるともっとも高い。またこれを正規合格と補欠合格とに二分すると，正規合格が68.4%，補欠合格5.8%となり，前者は法学部に次いで高く，後者は文学部ほどには高くないものの対象学部中第2位である。

推薦入学3カテゴリーの割合は23.5%であり，文学部に次ぐ。学業推薦は18.7%，スポーツ推薦は3.0%である。前者は文学部に次いで高く，後者は文学部に次いで低い。

A，Bの2高校からの入学割合は9.6%となり，割合としては文学部に次いで低い。

3-1 経済学科

(1)入学類型の分布

経済学科の分析対象数は617人（男子467人，女子150人）であった。経済学科の入試3

カテゴリーの割合は61.4%であり【図 2】，史学科，英文学科，人間科学専攻よりは高く，基督教学科を除く他の6学科よりは低い。正規合格は68.4%，補欠合格は5.8%である。推薦入学3カテゴリーは18.0%であり，史学科，英文学科，人間科学専攻に次ぐ。このうち学業推薦は12.6%，スポーツ推薦は4.9%となり，前者は英文学科，史学科，人間科学専攻に次ぎ，後者は全学科で人間科学とともにもっとも高い割合となっている。A，B両高校の占める割合は13.3%で，情報科学専攻，史学科に次ぐ。

(2)登録科目，放棄科目，不合格科目

【図 9】は経済学科対象学生を入学類型別，男女別に平均登録科目数と放棄科目数を整理したものである。

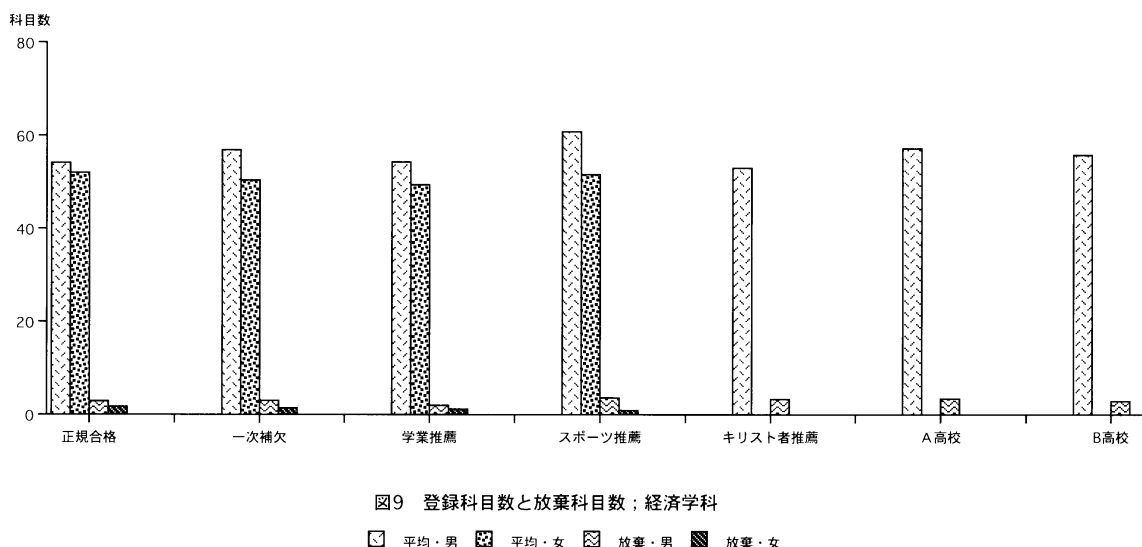


図9 登録科目数と放棄科目数；経済学科

□ 平均・男 ▨ 平均・女 ▩ 放棄・男 ■ 放棄・女

①登録科目数：経済学科全体の登録科目数平均は54.1である。男子ではキリスト者推薦以外のカテゴリー全てでこれ以上となっているが，女子では全てのカテゴリーで下回っている。すなわちどのカテゴリーにおいても男子が女子よりも多く科目登録をしている。

男子：登録科目数の最少はキリスト者推薦（53.0科目），最多はスポーツ推薦（60.8科目）であり，その差は7.8科目である。その間の順序は，

キリスト者推薦<正規合格<学業推薦<B高校<一次補欠<A高校<スポーツ推薦となる。キリスト者推薦とA高校（57.2科目）の差は4.2科目であり，これらを含む6つのカテゴリー間相互にはそれほど大きなギャップはみられない分だけ，スポーツ推薦の多さ

が目につく。

女子：女子の順序は以下のようであった。

学業推薦<一次補欠<スポーツ推薦<正規合格

最少の学業推薦は49.4科目，最多の正規合格は52.0科目であり，その差はわずかに2.6科目である。したがって登録科目数に関しては入学類型による大きな偏りはないといえる。

②放棄科目

男子：最少は学業推薦の2.0科目，最多はスポーツ推薦の3.6科目であり，その順位は以下のようになる。

学業推薦<正規合格=B 高校<一次補欠<キリスト者推薦< A 高校<スポーツ推薦

このうち学業推薦・正規合格・B 高校は2.0～2.9科目，一次補欠・キリスト者推薦・A 高校・スポーツ推薦は3.0～3.6科目であり，最少と最多の差は1.6科目にすぎない。したがって入学類型と放棄科目数との関連はそれほど大きくはなく，どのカテゴリーにあっても放棄する科目はそれほど多くはないといえる。

放棄割合の順序は

学業推薦< B 高校<一次補欠<正規合格< A 高校=スポーツ推薦<キリスト者推薦

となり，キリスト者推薦（6.2%）が最高となるが，学業推薦（3.7%）との差は2.5%にすぎないことから，この場合も放棄割合と入学類型との関連は低いといえる。

女子：放棄科目数は

スポーツ推薦<学業推薦<一次補欠<正規合格

の順に多くなる。しかし最少のスポーツ推薦の放棄科目は0.9科目，最多の正規合格では1.7科目である。放棄割合の順序もこれと同じであり，1.7～3.3%の範囲に分布している。したがって放棄科目，放棄割合ともに入学類型のいかんにかかわらず少ないといえる。

③不合格科目

男子：最少は学業推薦の7.2科目，最多はスポーツ推薦の16.1科目であり，その間の順序は

学業推薦<正規合格<一次補欠< B 高校< A 高校<キリスト者推薦<スポーツ推薦

である【図 10】。学業推薦・正規合格・一次補欠の3カテゴリーは7.2～8.3科目，B 高

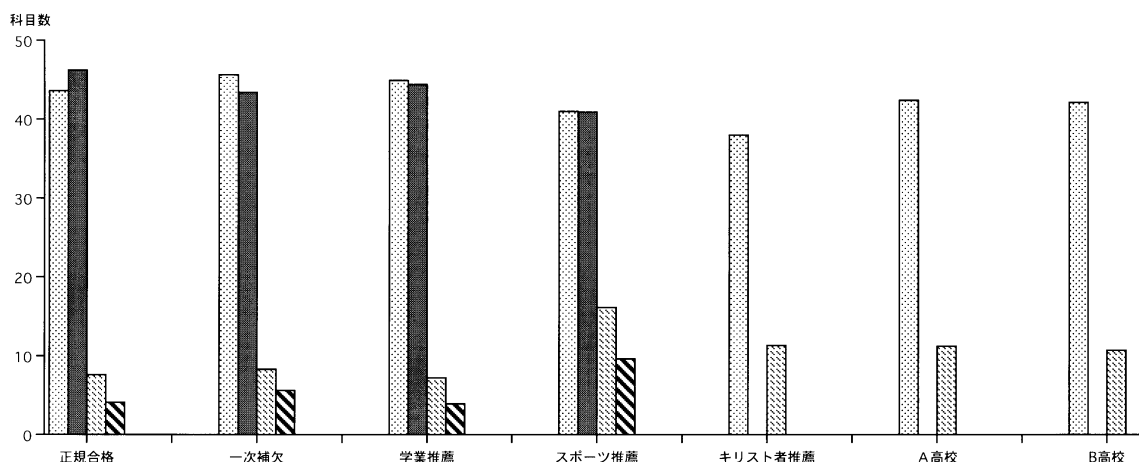


図10 合格科目数と不合格科目数；経済学科

合格・男 合格・女 不合格・男 不合格・女

校・A高校・キリスト者推薦の3カテゴリーは10.7～11.3科目であり、前3者にくらべると多くなっている。そしてスポーツ推薦とキリスト者推薦の差は4.8科目であるから、前者の突出が顕著である。

なお不合格割合も不合格科目と同じ順序となり、最低は学業推薦（13.3%）、最高はスポーツ推薦（26.5%）であった。学業推薦・正規合格・一次補欠の3カテゴリーは13.3～14.6%、B高校・A高校・キリスト者推薦の3カテゴリーは19.2～21.3%である。そしてスポーツ推薦とキリスト者推薦の差は5.2%あり、やはり前者が際立っている。

女子：以下に掲げるように、学業推薦の3.9科目からスポーツ推薦の9.6科目にばらつく。

学業推薦<正規合格<一次補欠<スポーツ推薦

このうち学業推薦と正規合格（4.1科目）とほとんど差はなく、一次補欠が5.6科目とやや多い。スポーツ推薦と一次補欠には4.0科目の差がある。

不合格割合を指標としたときの順序は、

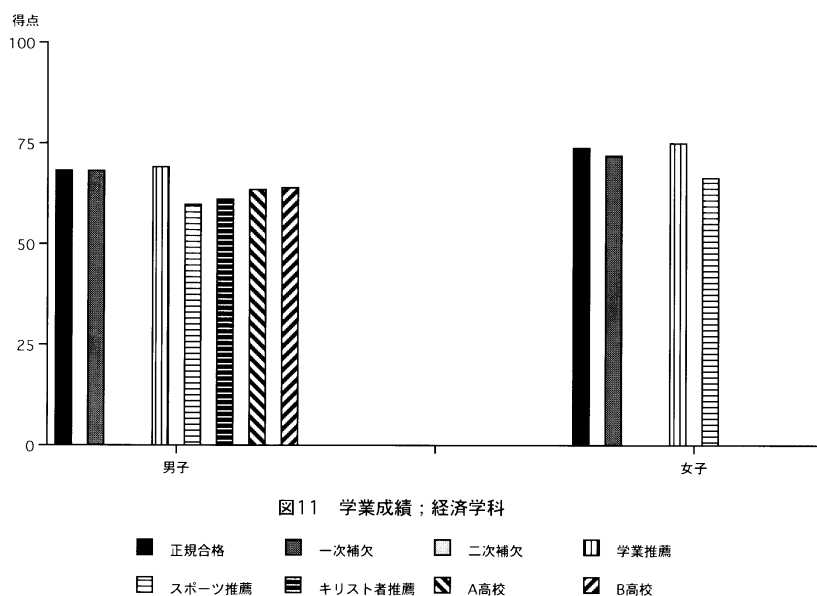
学業推薦=正規合格<一次補欠<スポーツ推薦

となり、最低の2カテゴリーは7.9%、一次補欠11.1%であるのにたいし、スポーツ推薦は18.6%となり、最低と最高の間には10.7%の差がある。

(3)学業成績

経済学科全体の学業成績平均は68.5、男子67.0、女子73.4であり、全体としても、また

男女共通の入学カテゴリーにおいても女子の成績が高い【図 11】。



男子：男子の最低はスポーツ推薦（59.8），最高は学業推薦（69.1）となり，その間はスポーツ推薦<キリスト者推薦<A高校<B高校<一次補欠<正規合格<学業推薦となっている。このうちスポーツ推薦・キリスト者推薦・A高校・B高校の4カテゴリーの学業成績は59.8～63.9の範囲にあり，男子の平均を下回っている。そして一次補欠・正規合格・学業推薦は68.1～69.1であり，平均を上回るグループをなしている。

女子：女子の順序は

スポーツ推薦<一次補欠<正規合格<学業推薦

である。スポーツ推薦・一次補欠は66.4～71.9となっており，いずれも女子平均を下回るものの，後者は学科全体の平均を上回っている。正規合格・学業推薦の2カテゴリーは73.8～75.0であり，女子平均を上回るとともに，経済学科全体としても最高水準にある。

(4)経済学科小括

経済学科においては男子スポーツ推薦を除き，登録科目数と放棄科目数・放棄割合の双方ともに入学類型間の大きな差はみられない。

①男子

推薦入学：登録科目数は概して少ない。放棄科目数・放棄割合，不合格数・不合格割合

ともに最低ランクであり、学業成績は最高である。

スポーツ推薦：登録科目数は他のカテゴリーにくらべると多い。放棄科目数・放棄割合は相対的にみて高いものの、全般に多くはないのでそれほど顕著ではない。しかし不合格数・不合格割合は群を抜いて高く、学業成績は低い。

キリスト者推薦：登録科目数は最少であり、放棄科目数はやや多く、放棄率は最高であるものの、他のカテゴリーとそれほど大きな差があるわけではない。不合格科目・不合格率は高く、学業成績は低い。

正規合格：登録科目数は少なく、放棄科目・放棄率ともそれほど高くはない。不合格科目・不合格割合は低く、学業成績は高い。

一次補欠：登録科目数は相対的に多く、放棄科目・放棄割合は平均的である。不合格科目・不合格率は低い部類に属し、学業成績は高い方である。

A 高校：登録科目数、放棄科目は相対的に多いが、放棄率は平均的である。不合格科目・不合格率はどちらかというとき高く、学業成績は低い方である。

B 高校：登録科目数は平均的であるが、放棄科目・放棄率は相対的に低い。不合格科目・不合格率はやや高いが、学業成績はどちらかというとき低い部類にある。

②女子

登録科目数、放棄科目数ともに入学類型間の差が僅少であるので、不合格科目・不合格率と学業成績のみを取り上げる。

学業推薦：不合格科目・不合格割合は最低であり、学業成績は最高である。

スポーツ推薦：不合格科目・不合格割合は最高、学業成績は最低である。

正規合格：不合格科目・不合格率は低く、学業成績は高い。

一次補欠：不合格科目・不合格率ともにやや高い。学業成績はやや低い。

3-2 商学科

(1)入学類型の分布

商学科の分析対象数は328人（男子216人，女子112人）であった。商学科の入試3カテゴリーの割合は84.7%であり【図2】，対象学科中では最大割合である。正規合格は78.4%，

補欠合格は6.4%であり、前者の割合もまた全学科で最大となっている。推薦入学3カテゴリーは12.1%であり、全学科で最小である。このうち学業推薦は8.8%，スポーツ推薦は2.7%，前者は全学科中最小，後者は英文学科に次いで低い。A，B両高校の占める割合は2.7%で、英文学科，二部経済学科に次いで低い。

(2)登録科目，放棄科目，不合格科目

【図 12】は商学科対象学生を入学類型別，男女別に平均登録科目数と放棄科目数を整理したものである。

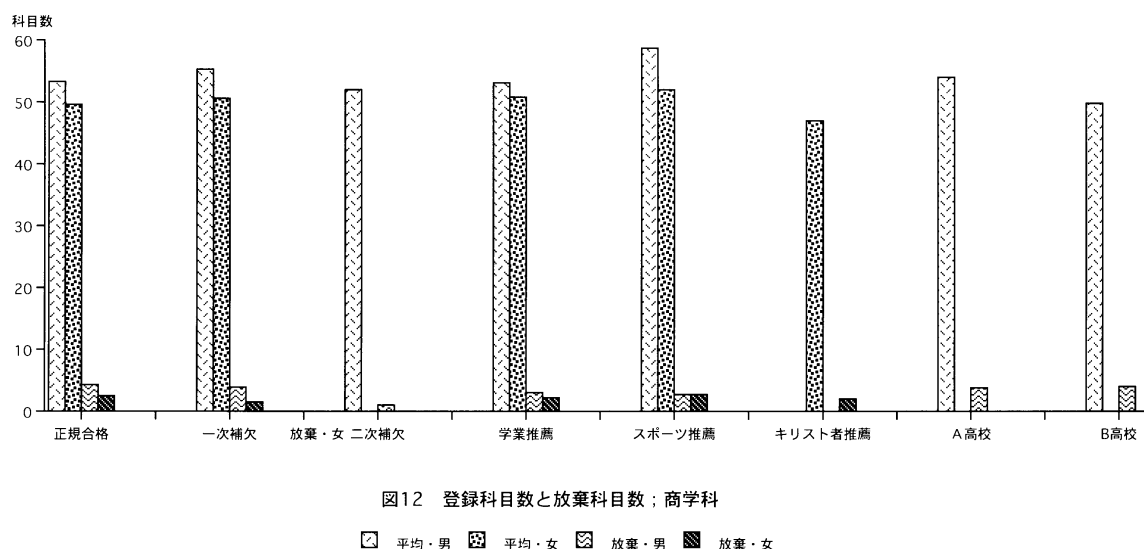


図12 登録科目数と放棄科目数；商学科

□ 平均・男 ▨ 平均・女 ▩ 放棄・男 ■ 放棄・女

①登録科目数：商学科全体の平均登録科目数は52.1科目である。男子ではB高校，二次補欠以外の5カテゴリーで平均以上を登録している。女子はすべて平均以下であった。男女ともに対象者のいるカテゴリー内部での比較をすると，男子が女子よりも多く登録している。

男子：最少はB高校の49.8科目，最多はスポーツ推薦の58.7科目であり，この間の順序は，

B高校 < 二次補欠 < 学業推薦 < 正規合格 < A高校 < 一次補欠 < スポーツ推薦

である。二次補欠から一次補欠までの5カテゴリーは52.0～55.3科目の範囲に分布しており，B高校よりはやや多く，スポーツ推薦よりは少ない。最少と最多の差は8.9科目となる。

女子：登録科目数の少ない順序に並べると、

キリスト者推薦<正規合格<一次補欠<学業推薦<スポーツ推薦

となる。キリスト者推薦は47.0科目であり、男女、入学類型をとおして最少である。正規合格・一次補欠・学業推薦の3カテゴリーは49.6～50.8科目でありほぼ同じであり、スポーツ推薦は52.0科目は学科全体の平均的な登録数であるが、女子のなかでは多い。キリスト者推薦とスポーツ推薦の差は3.0科目となり、男子にくらべると差の幅が小さい。

②**放棄科目**：最少は男子二次補欠の1.0科目、最多は男子正規合格の4.3科目である。男子の最少～最多の幅は3.3科目、女子のそれは1.2科目である。男子は女子よりも多く登録し、放棄する傾向がある。

男子：放棄科目数の少ない順序に各カテゴリーを並べると、

二次補欠<スポーツ推薦<学業推薦<A高校<一次補欠<B高校<正規合格

となる。スポーツ推薦から正規合格までの放棄科目数は2.7～4.3科目であり、これにくらべると二次補欠の1.3科目は少ない。

放棄科目割合の順序も放棄科目数と同じである。最低は二次補欠の1.9%、最高は正規合格の8.1%、その差は6.2%となり、それほど大きな差とはいえない。そのなかでもスポーツ推薦と学業推薦は4.6～5.7%、A高校から正規合格までの4カテゴリーは7.0～8.1%となっている。

女子：女子の放棄科目数は1.5～2.7であり、カテゴリー間の差は1.2科目とごく小さい。その順序は以下のとおりである。

一次補欠<キリスト者推薦<学業推薦<正規合格<スポーツ推薦

放棄割合の順序は

一次補欠<キリスト者推薦=学業推薦<正規合格<スポーツ推薦

となり、放棄科目数とそれほどの違いはない。また一次補欠(3.0%)～スポーツ推薦(5.2%)までの差2.2%は男子よりも小さく、男子以上にカテゴリー間の相違が小さくなっている。

③**不合格科目**：男女別に各カテゴリーの不合格科目数をみると1.5～17.8科目に達しており、入学類型間、男女間の差が大きい【図13】。

男子：最少はB高校の4.2科目、最多はスポーツ推薦の17.8科目であり、その差は13.6科

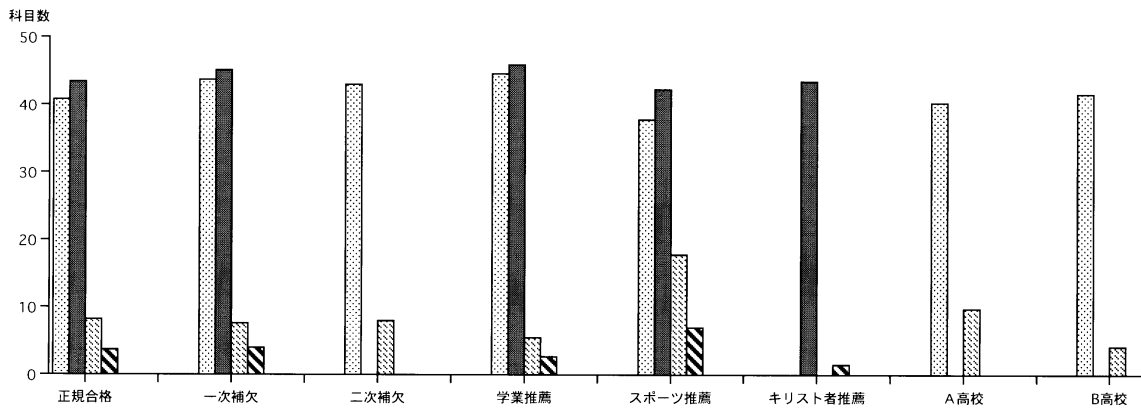


図13 合格科目数と不合格科目数；商学科

合格・男 合格・女 不合格・男 不合格・女

目に及ぶ。この間の順序は

B高校<学業推薦<一次補欠<二次補欠<正規合格<A高校<スポーツ推薦

となる。スポーツ推薦が突出して多く、次にA高校の9.8科目が続く。一次補欠から正規合格までは7.6~8.2科目にまとまり、学業推薦は5.5科目、B高校とともに少ない部類に属する。

不合格割合は以下のようになり、不合格科目数とほぼ同じである。

B高校<学業推薦<一次補欠<二次補欠=正規合格<A高校<スポーツ推薦

B高校と学業推薦は8.4~10.4%，一次補欠・二次補欠・正規合格の3カテゴリーは13.7~15.4%，A高校はこれよりもやや高く18.2%である。スポーツ推薦の30.3%は格段に高い割合となっている。

女子：最少はキリスト者推薦であり1.5科目、最多はスポーツ推薦の7.0科目である。その順序は

キリスト者推薦<学業推薦<正規合格<一次補欠<スポーツ推薦

である。学業推薦は2.7科目、正規合格と一次補欠には大きな差はなく3.7~4.0科目である。スポーツ推薦の7科目は男子全体にくらべても多くはないが、女子の中では多さが目につく。

不合格割合の順序は不合格科目数の場合と同じであり、キリスト教推薦・学業推薦の2カテゴリーが3.2~5.3%，正規合格・一次補欠が7.5~7.9%である。スポーツ推薦は13.5%

であり、女子ではもっとも高い割合となる。

(3)学業成績

商学科全体の学業成績平均は70.4，男子67.8，女子75.6であり，女子が上回る。また重複するカテゴリーのいずれにおいても女子の方が高い【図14】。

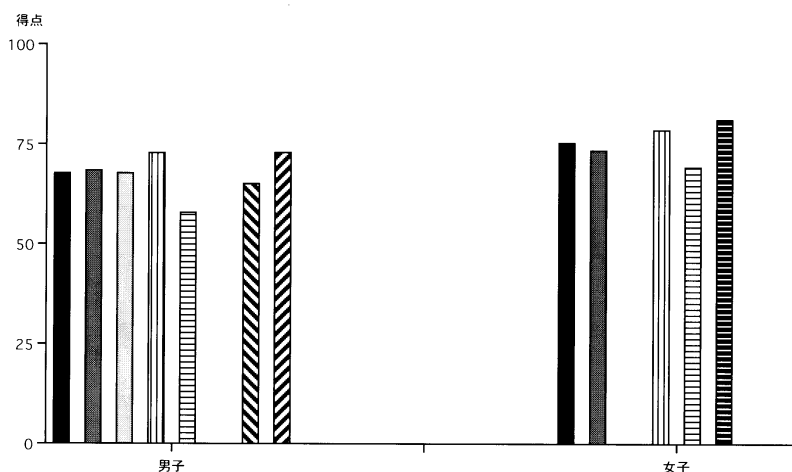


図14 学業成績；商学科

■ 正規合格 ■ 一次補欠 □ 二次補欠 ▨ 学業推薦
 ▩ スポーツ推薦 ■ キリスト者推薦 ▨ A高校 ▩ B高校

男子：最低はスポーツ推薦の57.9，最高はB高校の72.9であり，この間は
スポーツ推薦<A高校<正規合格=二次補欠<一次補欠<学業推薦<B高校
 の順序となる。このうちA高校・正規合格・二次補欠・一次補欠の4カテゴリーは65.1～68.4の範囲に分布しており，男子の平均なみか，それ以下であるものの，スポーツ推薦ほどには平均から大きくそれていない。学業推薦は72.8であり，B高校とほぼ同じレベルにある。

女子：学業成績の順序は

スポーツ推薦<一次補欠<正規合格<学業推薦<キリスト者推薦

となる。スポーツ推薦は69.3，キリスト者推薦は81.2であり，その差は11.9である。一次補欠と正規合格はそれぞれ73.5，75.4であり大差はない。学業推薦は78.6であり，キリスト者推薦に次ぐ。

(4)商学科小括

①男子

学業推薦：登録科目数，放棄科目・放棄割合ともに平均的である。不合格科目数・不合格割合は小さく，学業成績は高い。

スポーツ推薦：登録科目数が多く，放棄科目・放棄割合はむしろ低い。しかし不合格科目・不合格割合は群を抜いて高く，学業成績は最低である。

正規合格：登録科目数は平均的であるが，放棄科目・放棄割合が高い。不合格科目・不合格割合は中程度であり，学業成績も平均的である。

一次補欠：登録科目数，放棄科目・放棄割合はやや高い。不合格科目数・不合格割合は中程度であり，学業成績は相対的に高い。

二次補欠：登録科目数は少ない方であり，放棄科目・放棄割合は最低であるが，不合格科目・不合格割合，学業成績は平均的である。

A高校：登録科目数，放棄科目・放棄割合ともにごく平均的である。不合格科目・不合格割合はむしろ高く，学業成績は低い。

B高校：登録科目数は最少であるが，放棄科目・放棄割合は高い。不合格科目・不合格割合は最低，学業成績は最高レベルにある。

②女子

登録科目数，放棄科目数のカテゴリー間の差はごく少ないので，以下においては不合格科目・不合格割合と学業成績のみを取り上げる。

学業推薦：不合格科目・不合格割合は低く，学業成績は高い。

スポーツ推薦：不合格科目・不合格割合は最高，学業成績は最低である。

キリスト者推薦：不合格科目・不合格割合は最低，学業成績は最高である。

正規合格：不合格科目・不合格割合，学業成績ともに平均的である。

一次補欠：不合格科目・不合格割合は高く，学業成績は平均的である。

4.法学部法律学科

(1)入学類型の分布

法学部は法律学科の1学科であり，本報告での分析対象者は382人（男子250人，女子132人）である【図 1,2】。

法学部法律学科において入試3カテゴリーの占める割合は74.1%であり，学部としては経済学部の74.2%に比肩し，学科としては商学科に次いで高い。正規合格の割合は73.3%，一次補欠は0.8%であった。前者は商学科に次ぎ，後者は全学科中最低である。すなわち法学部法律学科の入試3カテゴリーはほとんどが正規合格といえる。

推薦入学の3カテゴリー全体の割合は15.3%であり，学部としては経済学部の15.9%よりも低く，最低である。学科レベルでは言語科学専攻の15.2%に次いで低い。このうち学業推薦は10.5%，スポーツ推薦は4.5%であり，学科レベルでは前者は商学科に次いで低く，後者は人間科学専攻，経済学科に次いで低い。

A高校とB高校全体の割合は10.7%となり，教養学部の10.8%に次ぎ高いが，学科レベルでは史学科，経済学科，人間科学専攻，情報科学専攻と大差はない。

以下においては法律学科と表記する。

(2)登録科目，放棄科目，不合格科目

【図 15】は法律学科の対象学生を入学類型別，男女別に平均登録科目数と放棄科目数

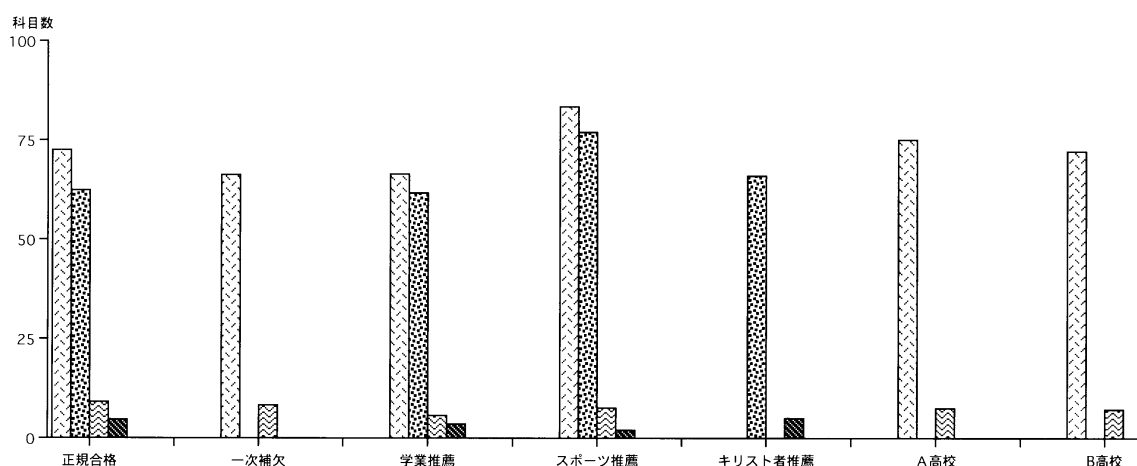


図15 登録科目数と放棄科目数；法律学科

□ 平均・男 □ 平均・女 □ 放棄・男 □ 放棄・女

を整理したものである。

①**登録科目数**：法律学科全体の登録科目数平均は69.3科目であった。男子では4カテゴリー，女子では1カテゴリーが平均を上回っており，概して女子の登録科目数が少ない。しかしカテゴリー間のばらつきが小さくはない。

男子：一次補欠の66.3科目を最少，スポーツ推薦の83.4科目を最多とし，以下のように分布する。

一次補欠<学業推薦<B高校<正規合格<A高校<スポーツ推薦

最少と最多の差は17.4科目である。学業推薦は66.5科目であり，最少の一次補欠とほぼ同じである。B高校と正規合格は72.2～72.5科目で並び，平均よりもやや多い。A高校では75.1%となり，法律学科としては多いといえる。スポーツ推薦は83.4科目であり，突出して多い。

女子：最少の学業推薦（61.7科目）と最多のスポーツ推薦（77.0科目）の差は15.3科目となり，その間の順序は，

学業推薦<正規合格<キリスト者推薦<スポーツ推薦

となる。正規合格は62.4科目で学業推薦と大差はない。キリスト者推薦の66.0科目は女子では多い方であるが，学科全体の平均を下回る。スポーツ推薦は学科全体としてみても多い。

②**放棄科目**

男子：学業推薦の5.7科目を最少に以下のように並ぶ。

学業推薦<B高校<A高校<スポーツ推薦<一次補欠<正規合格

B高校・A高校・スポーツ推薦の3カテゴリーは7.2～7.6科目，一次補欠と正規合格はそれぞれ8.3，9.1科目である。最少と最多の差は3.4科目と小さいものの，男子全体の放棄科目数が少くない。

放棄割合の順序は

学業推薦<スポーツ推薦<B高校=A高校<一次補欠<正規合格

であり，学業推薦は8.6%と最低，スポーツ推薦・B高校・A高校の三者は9.1～10.0%，一次補欠と正規合格は12.5～12.6%である。相対的に学業推薦が低く，一次補欠，正規合格が高いものの，これら間の差は4.0%にすぎない。

女子：放棄科目数の順序は、

スポーツ推薦<学業推薦<正規合格<キリスト者推薦

となり，最少のスポーツ推薦（2.0科目）と最多のキリスト者推薦の差は3.0科目にすぎない。放棄割合の順序も科目数と同じでありスポーツ推薦（2.6%）とキリスト者推薦（7.6%）の差は5%にとどまる。

③不合格科目

男子：最少は学業推薦（9.1科目），最多はスポーツ推薦（27.5科目）であり，

学業推薦<一次補欠<正規合格<A高校<B高校<スポーツ推薦

の順となっている【図16】。一次補欠は9.3科目であり，学業推薦とともに少ない。これに

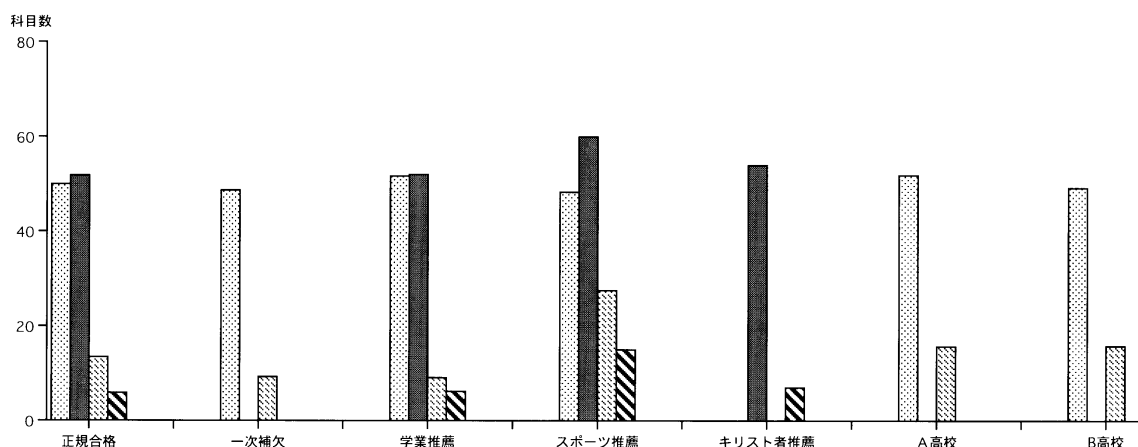


図16 合格科目数と不合格科目数：法律学科

合格・男 合格・女 不合格・男 不合格・女

たいしてB高校・A高校は15.7～15.8科目と多くなっており，正規合格（13.4科目）はこれらの中間に位置する。スポーツ推薦の27.5科目は突出している。

不合格割合の順序も上掲の科目数と同じであり，学業推薦の13.7%からスポーツ推薦の33.0%までの間に分布する。ここでも学業推薦・一次補欠，正規合格，B高校・A高校，スポーツ推薦にグループ化される。

女子：最少は正規合格の9.5科目であり，以下のような順序となる。

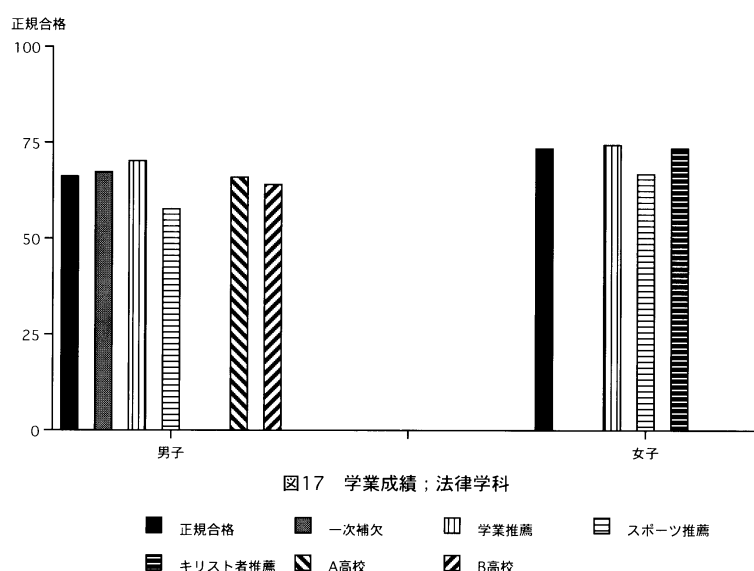
正規合格<学業推薦<キリスト者推薦<スポーツ推薦

正規合格・学業推薦はほぼ同じで9.5～6.2科目，キリスト者推薦が7.0科目であるのに対し，スポーツ推薦は15.0科目と多い。

不合格割合の順序も上と同じくなる。正規合格・学業推薦・キリスト者推薦はほぼ同じで9.5～10.6科目，スポーツ推薦が19.5科目と多い。

(3)学業成績

法律学科全体の学業成績平均は68.3，男子65.8，女子73.5であり，男女差が際立っている。また男子で学科平均を上回るのは学業推薦のみ，女子で平均を下回るのはスポーツ推薦だけである【図17】。



男子：最低はスポーツ推薦（57.7），最高は学業推薦（70.2）であり，この間は
スポーツ推薦<B高校<A高校<正規合格<一次補欠<学業推薦

となる。B高校・A高校・正規合格・一次補欠の4カテゴリーは64.1～67.3の範囲に分布し，これにくらべると学業推薦がやや高い。これらにたいするスポーツ推薦の低さが目につく。

女子：順位は

スポーツ推薦<正規合格=キリスト者推薦<学業推薦

であり，スポーツ推薦が66.8と低く，他の3カテゴリーは73.5～74.4の範囲にあり，大きな差はみられない。

(4)法律学科小括

入学類型カテゴリーによって登録科目数に相違があるものの、放棄科目にはそれほどの差がない。

①男子

学業推薦：登録科目数，放棄科目・放棄割合ともに少ない。不合格科目・不合格割合は最低であり，学業成績は最高である。

スポーツ推薦：登録科目数は最多であるが，放棄科目数はそれほど多くはなく，放棄割合はむしろ低い。しかし不合格科目・不合格割合は極めて高く，学業成績は最低である。

正規合格：登録科目数はやや多い程度であり，放棄科目数・放棄割合は男子で最高となっている。不合格科目・不合格割合はやや高めであり，学業成績は平均的である。

一次補欠：登録科目数，放棄科目・放棄割合ともに最低である。不合格科目・不合格割合は低く，学業成績は男子ではやや高い。

A高校：登録科目数はやや多く，放棄科目・放棄割合は平均的である。不合格科目・不合格割合はやや高く，学業成績は男子としては平均的であろう。

B高校：登録科目数，放棄科目・放棄割合は平均的であり，不合格科目・不合格割合はやや高い。学業成績はやや低いものの，平均から大きくずれてはいない。

②女子

学業推薦：登録科目数は最少である。放棄科目・放棄割合も概して低い。不合格科目・不合格割合はやや低く，学業成績は最高である。

スポーツ推薦：登録科目数はきわめて多い。放棄科目・放棄割合は最低であるが，不合格科目・不合格割合は最高，学業成績は最低である。

キリスト者推薦：登録科目数はやや多く，放棄科目・放棄割合も多い。不合格科目・不合格割合，学業成績ともに平均的である。

正規合格：登録科目数は少なく，放棄科目・放棄割合はやや高い。不合格科目・不合格割合は最低であるが，学業成績は平均的といえる。

5.教養学部教養学科

教養学部の分析対象となるのは248人（男子98人，女子150人），全体の10.8%であり，多学部にくらべると対象学生が少なく，女子比率が高い。

教養学部の入学試験3カテゴリーの割合は70.1%であり，文学部に次いで低い。またこれを正規合格と補欠合格とに二分すると，正規合格が65.3%，補欠合格4.8%となり，前者は文学部に次いで，後者は法学部に次いで低い【図1】。

推薦入学3カテゴリーの割合は17.7%であり，文学部に次ぐ。学業推薦は12.9%，スポーツ推薦は4.0%であり，前者は文学部に次いで高く，後者は文学部に次いで低い。

A，Bの2高校からの入学割合は10.8%となり，割合としてはもっとも高い。

5-1 人間科学専攻

(1)入学類型の分布

ここで対象となるのは81人（男子32人，女子49人）である。入試3カテゴリーの割合は63.0%であり，二部英文学科に次いで低い。このうち正規合格は59.3%，補欠合格は3.7%であった。前者は英文学科，史学科に次いで低く，教養学部では最低であり，後者は法律学科に次いで低い【図2】。

推薦入学の3カテゴリー全体は23.4%，学業推薦は17.3%であり，双方ともに英文学科，史学科の次ぐ。スポーツ推薦の4.9%は経済学科とともにもっとも高い。A高校，B高校はあわせると11.1%であった。

(2)登録科目，放棄科目，不合格科目

【図18】は人間科学専攻の対象学生を入学類型別，男女別に平均登録科目数と放棄科目数を整理したものである。

①登録科目：人間科学専攻全体の登録科目数平均は71.0科目であり，各カテゴリーをさらに男女別に区分すると，63.0～87.3科目の範囲に分布している。概して男子の登録科目数が多い。

男子：B高校が最少の63.0科目，最多はA高校の87.3%であり，その差は24.3科目であ

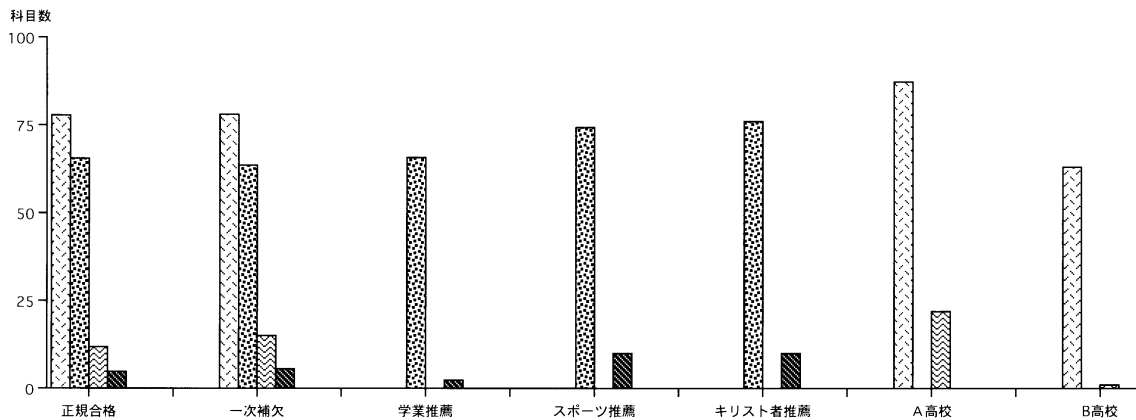


図18 登録科目数と放棄科目数；人間科学専攻

□ 平均・男 ▨ 平均・女 ▩ 放棄・男 ■ 放棄・女

る。この間の順序は以下のとおりである。

B高校<正規合格<一次補欠<A高校

正規合格と一次補欠は77.8～78.0科目と多く、A高校はさらに多く87.3科目である。

女子：最少の一次補欠（63.5科目）から最多のキリスト者推薦（76.0科目）までは以下のような順序となっている。

一次補欠<正規合格<学業推薦<スポーツ推薦<キリスト者推薦

正規合格と学業推薦は65.5～65.7科目でほぼ同じである。これにくらべるとスポーツ推薦（74.3科目）とキリスト者推薦は多い。

②**放棄科目：**女子はすべてのカテゴリーで10科目以下、男子は3カテゴリーにおいて11科目以上であり、男子の放棄数が多い。

男子：B高校から最多のA高校までの順序は

B高校<正規合格<一次補欠<A高校

となる。このうちB高校は1科目、正規合格は11.8科目、一次補欠は15.0科目である。A高校は21.9科目と多い。

放棄割合についても同じ順序であり、最小はB高校の1.6%、最高はA高校の25.1%である。正規合格は15.2%、一次補欠は19.2%であった。

女子：学業推薦の2.3科目が最少、スポーツ推薦・キリスト者推薦は10.0科目である。その順序は

学業推薦<正規合格<一次補欠<スポーツ推薦=キリスト者推薦

となり，正規合格と一次補欠はそれぞれ4.8，5.5科目であった。

放棄割合の順序も放棄科目数とほぼ同じであり，

学業推薦<正規合格<一次補欠<スポーツ推薦<キリスト者推薦

となる。学業推薦は最低の3.5%，正規合格と一次補欠は7.3～8.7%，キリスト者推薦とスポーツ推薦は13.2～13.5%である。

③**不合格科目**：全体的に女子が少なく，男子が多い【図19】。

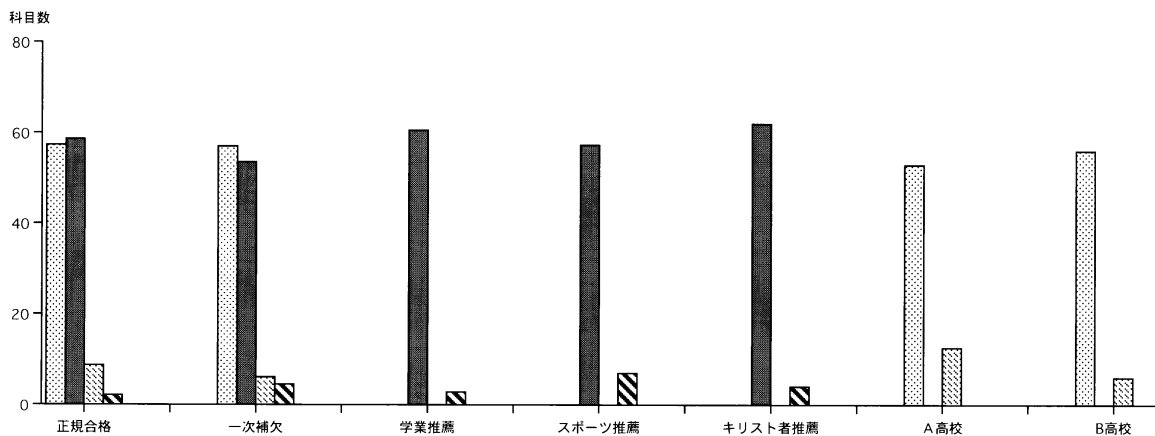


図19 合格科目数と不合格科目数；人間科学専攻

■ 合格・男 ■ 合格・女 ▨ 不合格・男 ▩ 不合格・女

男子：最少のB高校は6.0科目であり，その順序は

B高校<一次補欠<正規合格<A高校

となる。一次補欠は6.1科目であり少ない。正規合格はやや多く8.7科目，A高校は最多の12.6科目であった。

不合格割合で見ると，うえの順序は

一次補欠<B高校<正規合格<A高校

となる。最低の一次補欠は7.8%，B高校と正規合格はそれぞれ9.5，11.2%であり，A高校はこれらより高く14.4%であった。

女子：正規合格（2.1科目）からスポーツ推薦（7.0科目）までに以下のような順になっている。

正規合格<学業推薦<キリスト者推薦<一次補欠<スポーツ推薦

学業推薦は2.8科目であり，正規合格と大差はない。またキリスト者推薦と一次補欠もほぼ同じであり，それぞれ4.0，4.5科目であるのにたいし，スポーツ推薦は7.0科目と比較的多い。

不合格割合の順序も不合格科目と同じであり，最低は正規合格（3.2%）であり学業推薦が（4.3%）これに次ぐ。最高はスポーツ推薦の9.4%である。

(3)学業成績：人間科学全体の学業成績平均は76.3，男子71.3，女子79.8であり，概して女子が高い【図20】。

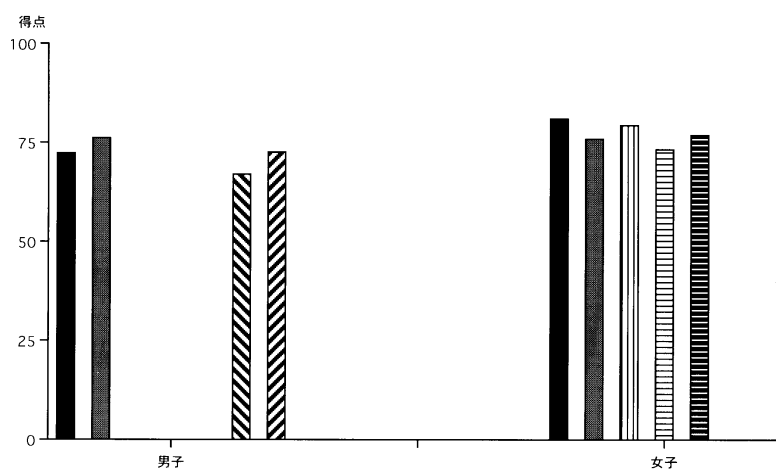


図20 学業成績；人間科学専攻

■ 正規合格 ■ 一次補欠 ▨ 学業推薦 □ スポーツ推薦
 ▨ キリスト者推薦 ▩ A高校 ▧ B高校

①男子：最低はA高校の67.0であり，その順序は

A高校<正規合格<B高校<一次補欠

となる。正規合格（72.3）とB高校（72.6）はほぼ同じであり，一次補欠はやや高く76.1であるが，すべて専攻全体の平均を下回っている。

②女子：最低のスポーツ推薦は73.3，最高の正規合格は81.0であり，

スポーツ推薦<一次補欠<キリスト者推薦<学業推薦<正規合格

の順となる。一次補欠とキリスト者推薦は75.9～76.9であり専攻全体の平均にほぼ近いが，女子においては低い部類に入る。学業推薦（79.4）と正規合格は専攻全体としても，また女子のなかでも高い。

(4)人間科学専攻小括

男女をくらべると登録科目，放棄科目，不合格科目は女子が少なく，学業成績も高い。

①男子

正規合格：登録科目数は男子としては平均的であり，放棄科目・放棄割合は比較的低い。不合格科目・不合格割合はやや多く，学業成績は平均的である。

一次補欠：登録科目数，放棄科目・放棄割合はやや多く，高い。不合格科目・不合格割合は低く，学業成績は最高である。

A高校：登録科目数，放棄科目，不合格科目ともにもっとも多い。学業成績は最低である。

B高校：登録科目，放棄科目，不合格科目はもっとも少ない。学業成績は平均的である。

②女子

学業推薦：登録科目は少ない方であり，放棄科目・放棄割合は低い。不合格科目・不合格割合も低く，学業成績は高い。

スポーツ推薦：登録科目数，放棄科目数が多い。不合格科目・不合格割合は女子ではもっとも高い。学業成績は最低であるが，男子平均を上回っている。

キリスト者推薦：登録科目数，放棄科目ともに多く，放棄割合も高い。不合格科目・不合格割合，学業成績ともに平均的である。

正規合格：登録科目数は少ないが，放棄科目・放棄割合は平均的である。不合格科目・不合格割合は最低，学業成績は最高である。

一次補欠：登録科目数は最少であるが，放棄科目・放棄割合は平均的である。不合格科目はやや多く，学業成績は女子では低いが，全体的には平均的である。

5-2 言語科学専攻

(1)入学類型の分布

言語科学の分析対象者は92人（男子23人，女子69人）である。入試3カテゴリーの割合は76.0%であり，商学科に次いで高い【図 2】。このうち正規合格は71.7%，法律学科，商

学科に次ぎ，教養学部ではもっとも高い。補欠合格は4.3%であった。全学科では低い方である。

推薦入学の3カテゴリー全体は15.2%，学業推薦は10.9%であり，双方ともに商学科，法律学科，情報科学専攻とともに低い部類に属する。スポーツ推薦の4.3%であった。A高校，B高校は7.6%であり，英文学科，商学科に次いで低くなっている。

(2)登録科目，放棄科目，不合格科目

【図 21】は言語科学専攻の対象学生を入学類型別，男女別に平均登録科目数と放棄科目数を整理したものである。

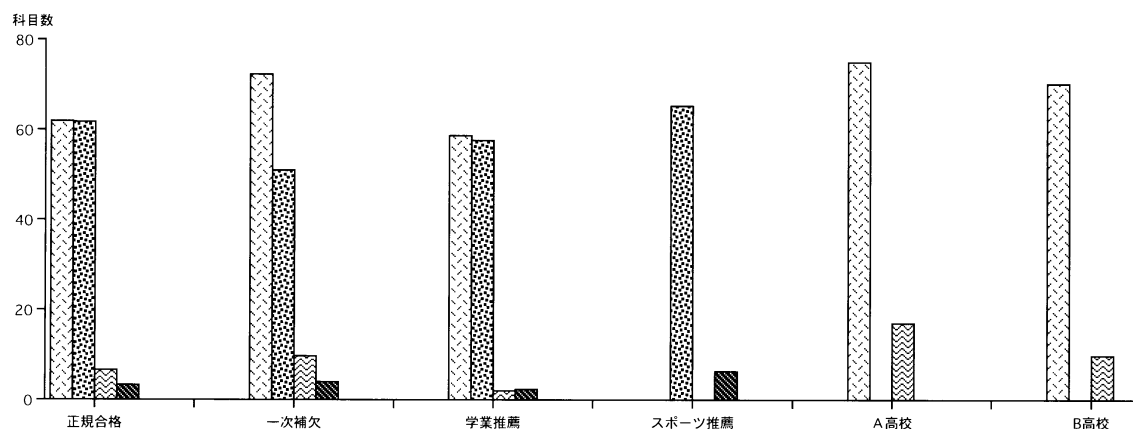


図21 登録科目数と放棄科目数；言語科学専攻

□ 平均・男 □ 平均・女 □ 放棄・男 □ 放棄・女

①登録科目数：言語科学専攻全体の登録科目数平均は62.1科目である。男女ともに入学類型による差が大きく，概して女子の登録科目数は少ない。

男子：学業推薦（58.7科目）を最少，A高校（75.0科目）を最多とし，以下の順に並ぶ。

学業推薦<正規合格<B高校<一次補欠<A高校

このうち，学業推薦と正規合格の差は3.2科目あるが，双方とも専攻平均を下回る。これにたいしB高校（70.2科目），一次補欠（72.3科目），A高校は専攻平均を上回るとともに，専攻全体としてみるとかなり多い。

女子：一次補欠の58.7科目を最少として以下のような順序となる。

一次補欠<学業推薦<正規合格<スポーツ推薦

これら4つのカテゴリー相互の差は3.6~6.6科目になり、学業推薦(57.6科目)と正規合格(61.7科目)は専攻全体の平均を下回る。スポーツ推薦は65.3科目であり、女子では多いものの、専攻平均よりもやや多い程度であり、男子と比較するとそれほど多いわけではない。

②**放棄科目**：全体としてみると男子において放棄科目が多く、カテゴリー間の差が大きい。

男子：各カテゴリー間の放棄科目数の多少の関係は以下のとおりである。

学業推薦<正規合格<一次補欠<B高校<A高校

これら隣接するカテゴリー間の差は0.1~7.2科目の範囲にある。最少の学業推薦は2.0科目、正規合格は6.6科目である。一次補欠とB高校はほぼ同じ9.7~9.8科目であり、A高校の17.0科目が突出している。

放棄割合の順序は放棄科目数のそれと同じであり、最低の学業推薦(3.4%)から最高のA高校の22.7%の範囲に分布する。これら間にある正規合格・一次補欠・B高校は10.7~14.0%の範囲に収まっており、これにくらべると学業推薦の低さとA高校の高さが際立っている。

女子：女子の最少は学業推薦(2.3科目)、最多はスポーツ推薦(6.3科目)であり、以下に示す順序となる。

学業推薦<正規合格<一次補欠<スポーツ推薦

正規合格は3.3科目、一次補欠は4.0科目であり、スポーツ推薦よりは少ない。しかし最少と最多の幅が4.0科目であることから、男子にくらべカテゴリー間の差はるかに小さいといえる。

放棄割合を指標した場合も、上と同じ順序となり、学業推薦(4.0%)とスポーツ推薦(9.7%)の差は5.7%である。正規合格は5.4%、一次補欠7.8%であるから、これら4カテゴリーの放棄割合は男子の正規合格よりも低い。

③**不合格科目**：全体としてみると女子よりも男子が多い【図22】。

男子：最少の学業成績の3.3科目から最多の一次補欠の11.7科目までの広がりがあり、その間の順序は、

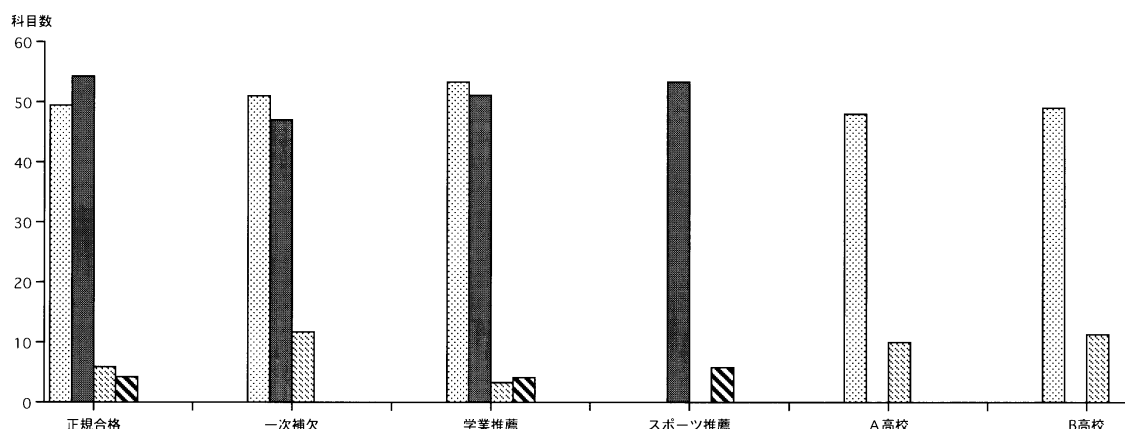


図22 合格科目数と不合格科目数；言語科学専攻

■ 合格・男 ■ 合格・女 ▨ 不合格・男 ▩ 不合格・女

学業推薦<正規合格< A高校< B高校<一次補欠

となる。正規合格は5.9科目であり、学業推薦よりもやや多い。A高校・B高校・一次補欠の不合格科目は前二者よりも多く、10.3～11.7科目の範囲に集まる。

不合格割合の順序も上記不合格科目と同じであり、学業推薦が最低で5.6%，正規合格はこれよりもやや高く9.5%である。A高校・B高校・一次補欠の3カテゴリーは13.3～16.2%である。

女子：一次補欠の不合格科目はない。女子全体の順序は

一次補欠<学業推薦<正規合格<スポーツ推薦

となる。学業推薦・正規合格・スポーツ推薦の不合格は4.1～5.8科目であり、これらの中には入学類型による差はあまりない。

不合格割合の順序は若干異なり、

一次補欠<正規合格<学業推薦<スポーツ推薦

となるが、一次補欠以外の3カテゴリーの割合は6.8～8.9%であり、ほぼ同じ程度である。

(3)学業成績：言語科学専攻全体の学業成績平均は75.0，男子は70.5，女子76.5であり、概して女子が高い【図23】。

①男子

最低はB高校の66.7，最高は学業成績の76.4である。この間の順序は

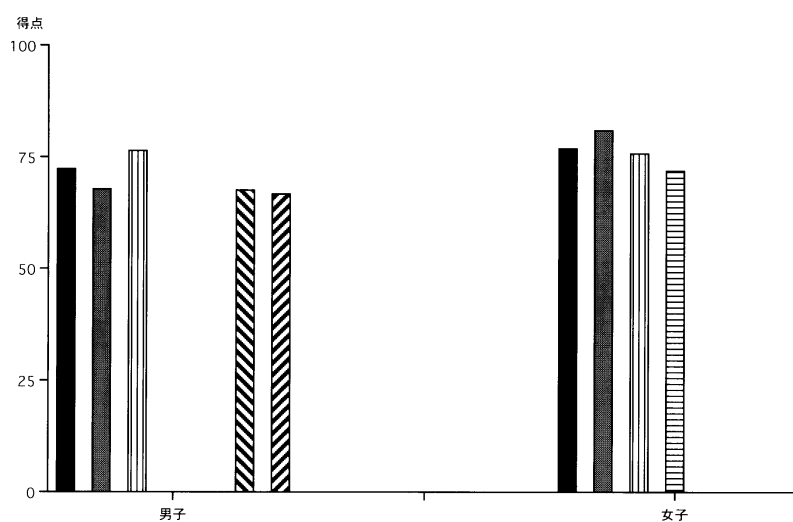


図23 学業成績；言語科学専攻

正規合格
 一次補欠
 学業推薦
 スポーツ推薦

キリスト者推薦
 A高校
 B高校

B 高校 < A 高校 < 一次補欠 < 正規合格 < 学業推薦

となる。このうちA高校と一次補欠は67.6～67.8でありほぼ同じであり，B高校とともに成績下位のグループをなす。これにくらべると正規合格（72.3）と学業推薦の成績は高い。

②女子

最低のスポーツ推薦でも71.9であり，学業成績は高い。これらの順序は

スポーツ推薦 < 学業推薦 < 正規合格 < 一次補欠

となる。学業推薦と正規合格はそれぞれ75.8，76.9であり，一次補欠の81.0の高さが際立っている。

(4)言語科学専攻小括

専攻全体としてみると，女子は男子よりも登録科目数，放棄科目数，不合格科目数が少なく，学業成績が高い。

①男子

学業推薦：登録科目数，放棄科目・放棄割合，不合格科目・不合格割合がもっとも低く，学業成績が最高である。

正規合格：登録科目数，放棄科目・放棄割合，不合格科目・不合格割合は学業推薦に次

いで低く、学業成績も学業推薦に次いで高い。

一次補欠：登録科目数，放棄科目・放棄割合は高い。不合格科目・不合格割合はもっとも高く，学業成績は低い。

A高校：登録科目数，放棄科目・放棄割合はもっとも高く，不合格科目・不合格割合も高い。学業成績は低い。

B高校：登録科目数，放棄科目・放棄割合は高い。不合格科目・不合格割合が高く，学業成績はもっとも低い。

②女子

学業推薦：登録科目数は少ない方であり，放棄科目・放棄割合は最低である。不合格科目・不合格割合，学業成績はともに平均的であるが，専攻全体としては高いレベルにある。

スポーツ推薦：登録科目数，放棄科目・放棄割合，不合格科目・不合格割合は女子ではもっとも高い。学業成績は最低であるが，それでも男子全体の平均を上回っている。

正規合格：登録科目数，放棄科目・放棄割合はともに低い方である。不合格科目・不合格割合，学業成績は女子内部では平均的であるが，学業成績は男子のどのカテゴリーよりも高い。

一次補欠：登録科目数が少なく，放棄科目・放棄割合は平均的である。不合格科目・不合格割合はもっとも低く，学業成績は最高レベルにある。

5-3 情報科学専攻

(1)入学類型の分布

情報科学専攻の分析対象者は75人（男子43人，女子32人）である。入試3カテゴリーの割合は70.7%である【図2】。このうち正規合格は64.0%，補欠合格は6.7%であった。他の学科との比較では際立った凹凸はない。

推薦入学の3カテゴリー全体は14.7%，学業推薦は10.7%であり，双方ともに低い部類に属する。スポーツ推薦の2.7%は商学科と同じであり，英文学科に次いで低い。A高校，B高校は14.7%であり，全学科でもっとも高い。

(2)登録科目，放棄科目，不合格科目

【図 24】は情報科学専攻の学生を対象に入学類型別，男女別に平均登録科目数と放棄科目数を整理したものである。

①登録科目数：情報科学専攻全体の登録科目数平均は64.6科目である。男子はどのカテ

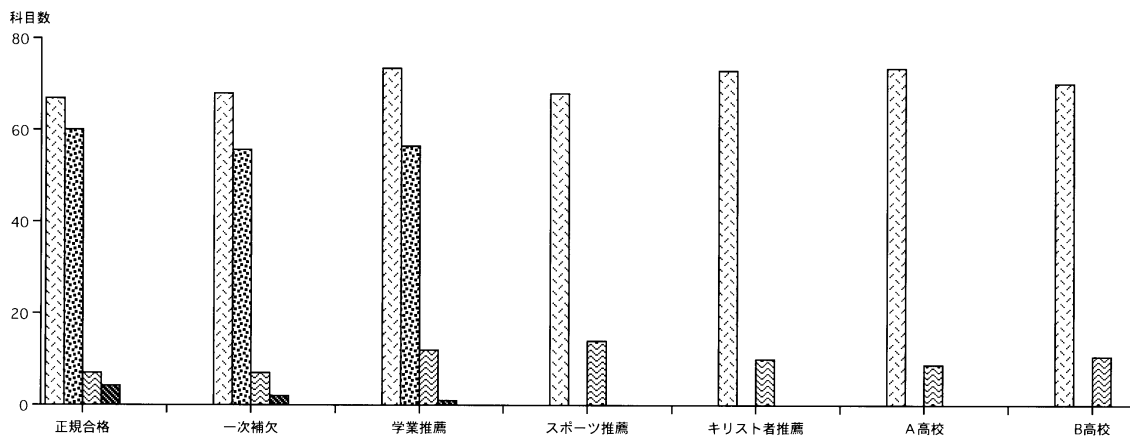


図24 登録科目数と放棄科目数；情報科学専攻
 □ 平均・男 ▨ 平均・女 ▩ 放棄・男 ■ 放棄・女

ゴリーも平均を超え，女子は下回っている。

男子：最少は正規合格の66.9科目，最多は学業推薦とA高校の73.5であり，この間の順序は，

正規合格 < 一次補欠 = スポーツ推薦 < B高校 < キリスト者推薦 < 学業推薦 = A高校

であった。一次補欠とスポーツ推薦は68.0科目と少なく，正規合格とほぼ同じである。キリスト者推薦・学業推薦・A高校の3カテゴリーは73.0～73.5科目と多く，B高校は70.2科目であり，男子のなかではほぼ中間的な位置にある。

女子：女子の順序は以下のとおりであり，

一次補欠 < 学業推薦 < 正規合格

最少の一次補欠は55.7科目である。学業推薦は56.5科目で一次補欠と大差はない。正規合格は60.1科目とやや多いものの，専攻全体の平均を下回っている。

②放棄科目：男子の場合，女子よりもかなり多く，カテゴリー間の差も大きい。

男子：最少は正規合格と一次補欠の7.0科目，最多はスポーツ推薦の14.0科目であり，その差7.0科目である。

一次補欠＝正規合格＜A高校＜キリスト者推薦＜B高校＜学業推薦＜スポーツ推薦

A高校は8.8科目と男子のなかでは比較的少ない。キリスト者推薦，B高校は10.0～10.6科目，学業推薦は12.0科目であった。

放棄割合の順序は放棄科目数とほぼ同じであり，

一次補欠＜正規合格＜A高校＜キリスト者推薦＜B高校＜学業推薦＜スポーツ推薦

の順となる。一次補欠（10.3%）から学業推薦（16.3%）までの6カテゴリーの間の差は6.0%であり，スポーツ推薦の20.6%の高さが目につく。

女子：放棄科目数，放棄割合ともに

学業推薦＜一次補欠＜正規合格

の順序となり，一次補欠（1.0科目），学業推薦（2.0科目）にくらべ正規合格が4.2科目とやや多いが，専攻全体としてみればむしろ少ない。放棄割合は1.8～7.0%にすぎない。

③不合格科目：女子の不合格科目は男子のそれよりもはるかに少なく，カテゴリー間の差も小さい【図25】。

男子：最少はスポーツ推薦の7.5科目，最多はキリスト者推薦の16.0科目であり，この間

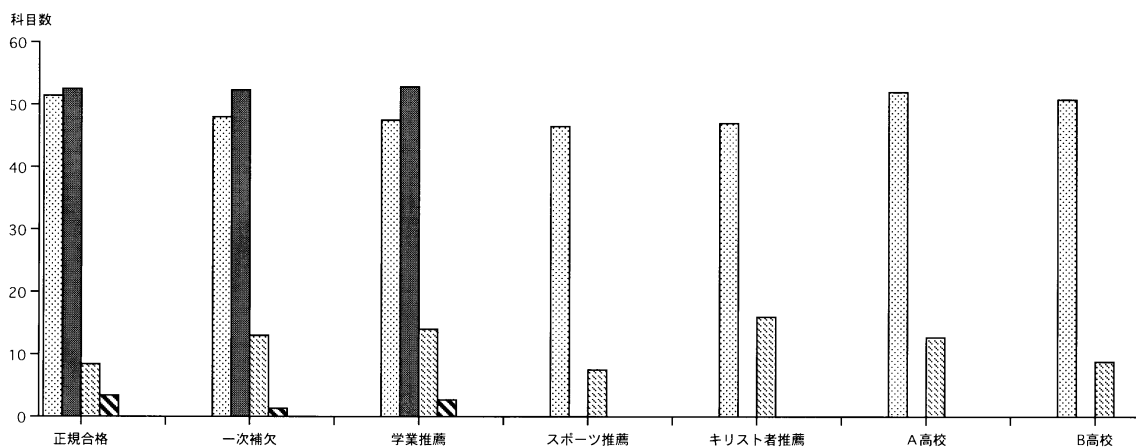


図25 合格科目数と不合格科目数；情報科学専攻

合格・男 合格・女 不合格・男 不合格・女

の順序は，

スポーツ推薦＜正規合格＜B高校＜A高校＜一次補欠＜学業推薦＜キリスト者推薦

となる。スポーツ推薦・正規合格・B高校の3カテゴリーは7.5～8.8科目，A高校・一次補欠・学業推薦は12.7～14.0科目である。

不合格割合を指標とした場合の順序は、

スポーツ推薦<B高校<正規合格<A高校<一次補欠=学業推薦<キリスト者推薦

であり、スポーツ推薦・B高校・正規合格は11.0～12.6%，A高校・一次補欠・学業推薦・キリスト者推薦の4カテゴリーは17.3～21.9%の範囲に分布している。

女子：不合格科目数，不合格割合ともに

一次補欠<学業推薦<正規合格

の順に並ぶ。不合格科目は一次補欠から正規合格まで1.3～3.4科目，不合格割合は2.3～5.7%であり，カテゴリー間の差は男子にくらべるとはるかに小さい。

(3)学業成績：情報科学専攻全体の学業成績平均は71.9であった【図26】。男子は68.7，女子は76.6であり，男子は全てのカテゴリーで専攻平均を下回り，女子では全て上回っている。

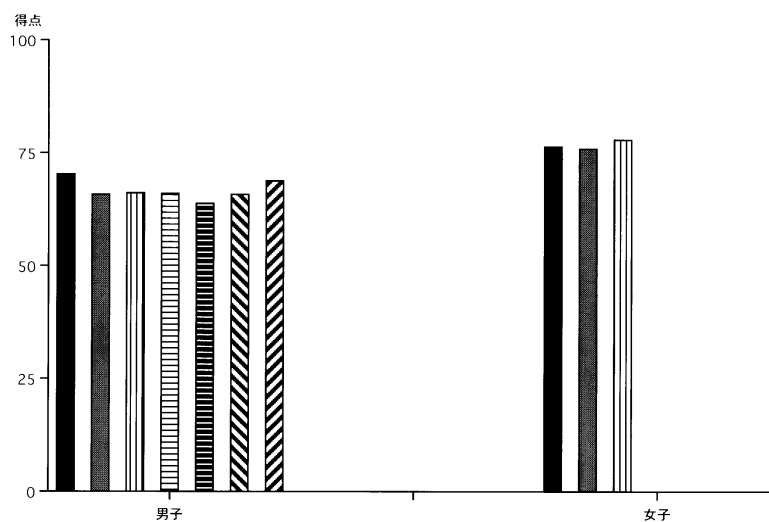


図26 学業成績；情報科学専攻

■ 正規合格 ■ 一次補欠 □ 学業推薦 □ スポーツ推薦
 ■ キリスト者推薦 ▨ A高校 ▨ B高校

男子：以下のように最低はキリスト者推薦（63.8），最高は正規合格（70.3）であり，その差は6.5である。

キリスト者推薦<A高校=一次補欠<スポーツ推薦<学業推薦<B高校<正規合格

A高校・一次補欠・スポーツ推薦・学業推薦の4カテゴリーは65.8～66.1に集中しており，B高校（68.8），正規合格がやや高い。

女子：女子の順序は

一次補欠<正規合格<学業推薦

である。一次補欠（75.9）と学業推薦（77.9）の差は2.0である。

(4)情報科学小括

各カテゴリー間の差以上に、男女差が顕著である。

①男子

学業推薦：登録科目数は最多であり，放棄科目・放棄割合，不合格科目・不合格割合も高い。学業成績は男子では中程度である。

スポーツ推薦：登録科目数は少ない。放棄科目・放棄割合は最高である。不合格科目・不合格割合は最低，学業成績は男子では中程度である。

キリスト者推薦：登録科目数は多く，放棄科目・放棄割合は平均的であるが，不合格科目・不合格割合はもっとも高い。学業成績はもっとも低い。

正規合格：登録科目数，放棄科目は最少であり，放棄割合も低い。不合格科目は少なく，不合格割合も低い方である。学業成績は男子ではもっとも高い。

一次補欠：登録科目数はすくなく，放棄科目数・放棄割合はもっとも低い。不合格科目・不合格割合は高い方であり，学業成績は低い。

A高校：登録科目数は最多，放棄科目・放棄割合はむしろ低い。不合格科目・不合格割合はやや高く，学業成績は低い。

B高校：登録科目数，放棄科目・放棄割合は平均的といえる。不合格科目・不合格割合は低い方であり，学業成績は男子では高い。

②女子

3カテゴリーの間に大きな差はなく，登録科目数，放棄科目，不合格科目が少なく，学業成績も高い。

6 二部

夜間部である二部は文学部と経済学部におかれ，2学科である。両学科とも正規合格と二部特別入試が主要なカテゴリーとなっている。

6-1 二部英文学科

二部英文学科の対象者は39人（男子12人，女子27人）であり，学科としては基督教学科に次いで対象者数が少ない。

(1)入学類型の分布

入試経由の対象者は正規合格のみであり，61.5%である【図2】。これは史学科とほぼ同じ割合であり，全学科中では低い。二部特別入試は30.8%である。編入学が7.7%を占めており，この学科の特徴となっている。編入学はすべて女子である。編入学の場合，他のカテゴリーと受講科目が同じではないので，直接比較には問題があるが，この学科の特徴を考慮し，参考として取り上げておきたい。

(2)登録科目，放棄科目，不合格科目

①登録科目

学科全体の登録科目数平均は49.5科目である。男子では二部特別入試が48.0科目，正規合格が51.3科目であった。女子は正規合格が51.3科目，二部特別入試が54.6科目である。男女共に登録科目が少ない。編入学はその性質上，23.7科目と少ない【図27】。

②放棄科目

男子の放棄科目は3.0～5.4科目であり，正規合格でやや多い。放棄割合は二部特別入試が6.3%，正規合格は10.5%であった【図27】。

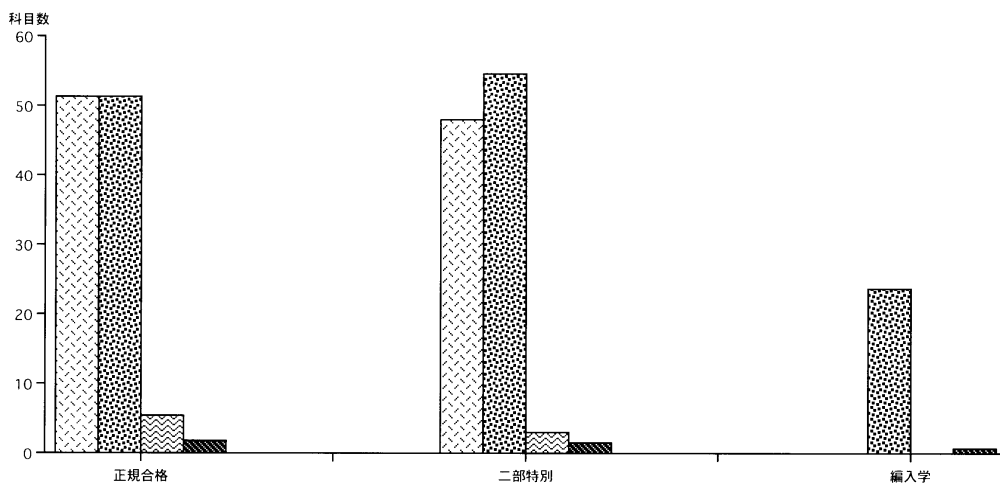


図27 登録科目数と放棄科目数；二部英文学科

□ 平均・男 □ 平均・女 □ 放棄・男 □ 放棄・女

女子の二部特別入試（1.5科目）と正規合格（1.8科目）に差はほとんどない。放棄割合も2.8～3.5%と低い。編入学の放棄科目は0.7科目と少ないが、放棄割合は3.0%である。

③不合格科目

男子では二部特別入試が2.3科目（不合格割合4.8%），正規合格が3.6科目（7.0%）であった【図 28】。女子の二部特別入試は2.0科目（3.7%），正規合格は2.3科目（4.5%）であり，差は小さい。女子編入学は科目数は1.3科目であるが，不合格割合は5.5%となる。

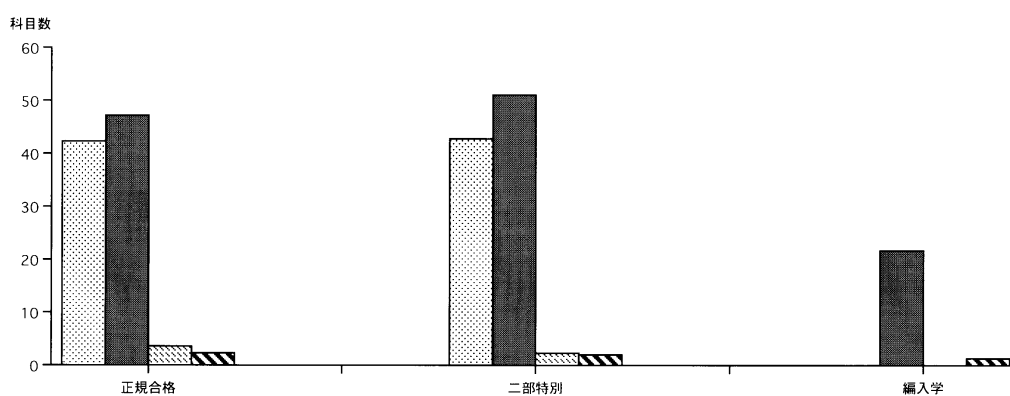


図28 合格科目数と不合格科目数；二部英文学科

■ 合格・男 ■ 合格・女 □ 不合格・男 □ 不合格・女

(3)学業成績

学科全体の平均は75.2，男子72.4，女子76.3であり，女子がやや高い【図 29】。

男子の場合，正規合格は71.2，二部特別入試は75.0である。女子の正規合格は75.6，二部特別入試は77.0であり，双方ともに学科平均を上回る。編入学は79.7であった。

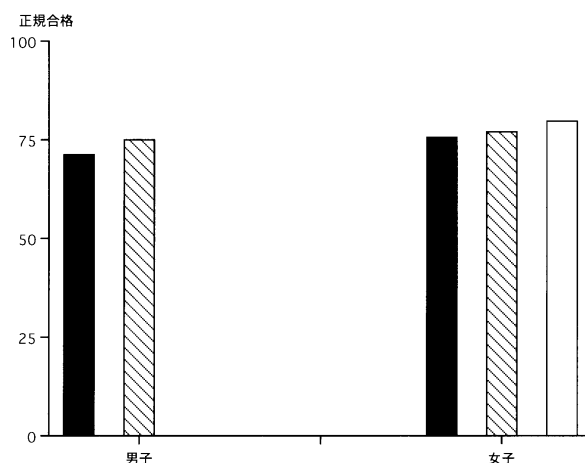


図29 学業成績；二部英文学科

■ 正規合格 □ 二部特別 □ 編入学

(4) 二部英文学科小括

正規合格：登録科目数は男子では多く、女子では少ない。放棄科目、不合格科目ともにやや多いものの、他のカテゴリーとの差はそれほど大きくはない。学業成績は相対的に低い。

二部特別入試：登録科目数は男子で少なく、女子が多い。放棄科目、不合格科目は相対的に少なく、学業成績はやや高い。

編入学：放棄割合は中程度、不合格割合はやや高いものの、他のカテゴリーと大差はない。学業成績はもっとも高い。

6-2 二部経済学科

二部経済学科の分析対象となるのは241人（男子186人、女子55人）であり、対象者全体の10.5%となる。

(1) 入学類型の分布

入学類型には正規合格（73.0%）、二部特別入試（25.3%）、A高校（1.2%）、編入学（0.4%）の4カテゴリーがあるが、女子は前二者のみである【図2】。

(2) 登録科目、放棄科目、不合格科目

①登録科目：登録科目数平均は58.0科目であり、編入学を除くと、男子はすべてのカテゴリーで平均以上、女子は平均以下である【図30】。

男子の二部特別入試と正規合格はそれぞれ58.5、58.9科目であり、A高校は62.7科目とやや多い。編入学は26.0科目である。女子では正規合格（55.2科目）と二部特別入試（56.9科目）に大きな差はない。

②放棄科目：男子では正規合格と二部特別入試が同じ5.2科目である。A高校は6.3科目であり、編入学は1.0科目であった。放棄割合で比較した場合、正規合格・二部特別入試・A高校は8.8～10.1の範囲にある。編入学は3.9%と低い【図30】。

女子の正規合格は2.3科目、二部特別入試は3.2科目であり、双方ともに少ない。

③不合格科目：男子では二部特別入試（10.4科目、17.8%）・正規合格（11.8科目、

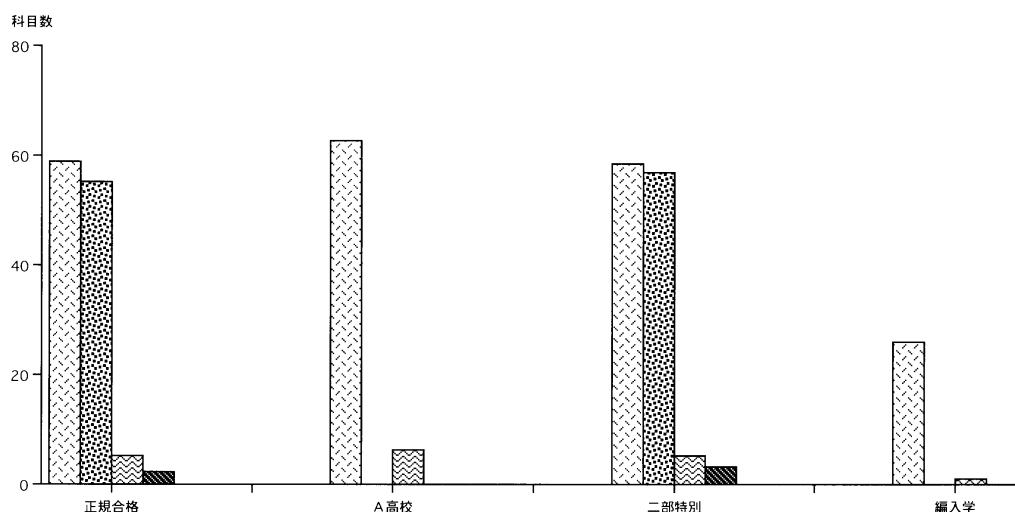


図30 登録科目数と放棄科目数；二部経済学科

□ 平均・男 ■ 平均・女 ▨ 放棄・男 ▩ 放棄・女

20.0%) の2カテゴリーとA高校の14.7科目 (23.4%) の間にやや開きがある。これらにくらべ編入学の不合格割合は7.7%と低い【図31】。

女子の不合格科目・不合格割合は男子よりも低い。二部特別入試は4.4科目 (7.7%), 正規合格は7.5科目 (13.6%) であった。

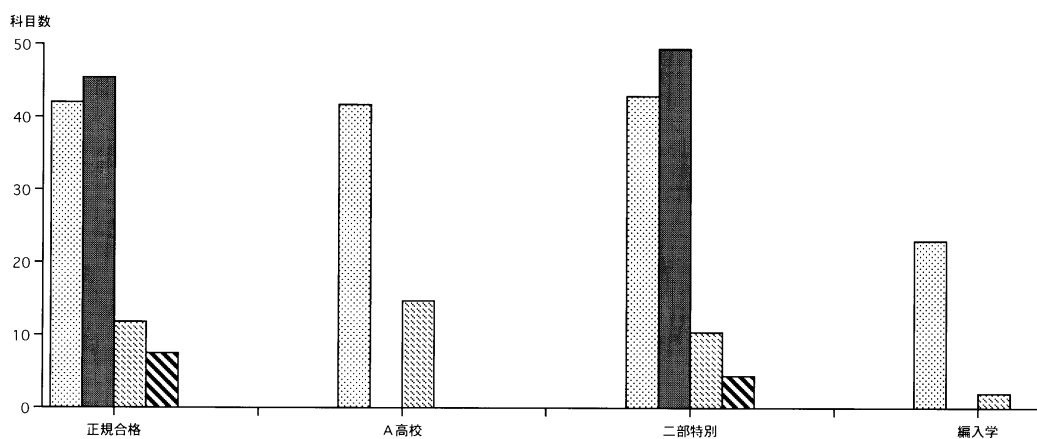
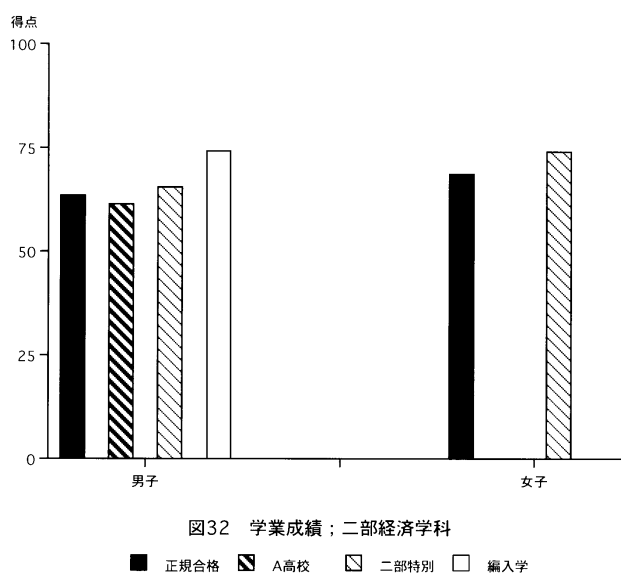


図31 合格科目数と不合格科目数；二部経済学科

▨ 合格・男 ■ 合格・女 ▨ 不合格・男 ▩ 不合格・女

(3)学業成績：学科全体の学業成績平均は65.4であり，男子は64.0，女子は70.0であり，女子が高い【図32】。



男子の場合、最低はA高校（61.4）、最高は編入学（74.2）であり、この間の順序は

A高校<正規合格<二部特別入試<編入学

である。正規合格（63.5）と二部特別入試（65.5）は平均的といえる。

女子の正規合格は68.6、二部特別入試は74.0であり、双方ともに学科平均を上回っているが、後者が高い。

(4)二部経済学科小括

①男子

正規合格：登録科目数，放棄科目数は平均的であるが，不合格科目・不合格割合はやや高い。学業成績は高くはない。

二部特別入試：登録科目数，放棄科目数ともに平均的である。不合格科目・不合格割合は相対的に低く，学業成績は平均的といえる。

A高校：登録科目数，放棄科目数が最多であり，放棄割合は高いものの，他のカテゴリーと大きな差はない。不合格科目・不合格割合はもっとも高く，学業成績はもっとも低い。

編入学：放棄割合，不合格割合ともに他のカテゴリーよりもかなり低く，学業成績はもっとも高い。

②女子

二部特別入試にくらべると正規合格科目・不合格割合が高いものの、学科全体としてみると双方ともに低い。学業成績は正規合格はやや高く、二部特別入試は高い。

おわりに

以上、各学科ごとに登録科目、放棄科目、合格・不合格科目、および学業成績の分布を入学類型と性別を中心にして概観してきた。統計的な検討は今後の課題である。

概していえば、女子よりも男子が安定しており、学業推薦、正規合格のカテゴリーが比較的安定した傾向を示している。しかしその他のカテゴリーには必ずしも一貫した傾向がみられるとはいえない。この理由の1つはこれらのカテゴリーに属する学生数であろう。学生数が僅少な場合、その学生の個人的特性によって左右されるからである。したがって今後は対象者数を増やしていく必要がある。

なおスポーツ推薦は総じて不安定であるが、これは1つには彼らの学生生活そのものが関係していることはいうまでもない。スポーツと学業の双方にウエイトをおくような場合、それ特有の戦略が求められるからである。換言すると、スポーツ推薦に見合った教育システムが必要とされているともいえる。